



**VISION**     *A-181*

User's Manual(JP)



商品紹介	4
著作権	5
使用方法	5
説明項目	6
- VISION 電源 ON	6
- 電源 OFF	6
- 自動電源 OFF	6
- バッテリー残量警告表示	6
- バッテリー交換	6
- VISION 背面部	7
- 付属品	7
メインメニュー	8
- Menu "Data"	10
o Recall (リコール)	11
o Max Min GF-Mean (G フォース最大、最小)	14
o RPM (回転数)	17
o Speed (スピード)	19
o View (View モード)	21
o Theoretical (理論的ベストラップ)	24
o Counters (カウンター)	26
o Reset (リセット)	28
o Download IN / OUT (ダウンロード IN/OUT)	29
o Copy (コピー)	31
o Printer (プリンター)	33
o Return (リターン)	35
- Menu "2 Drivers Chrono" (2台計測・解析)	36
o Start - Stop (スタートストップ)	37
o Best (ベスト)	43
o Recall (リコール)	43
o Total Time (トータルタイム)	44
o Reset (リセット)	44
o Printer (プリンター)	45
o Return (リターン)	46

- Menu "4 Drivers Chrono" (4台計測・解析)	
○ Start - Stop (スタートストップ)	
○ Best (ベスト)	
○ Recall (リコール)	
○ Total Time (トータルタイム)	
○ Reset (リセット)	
○ Printer (プリンター)	
○ Return (リターン)	
- Menu "Set1, Set2, Set3 Karting" (Set1-3 情報入力: レーシングカート)	
○ Recall (リコール)	
○ Reset (リセット)	
○ Rec (入力)	
○ Printer (プリンター)	
○ Return (リターン)	
- Menu "Set1, Set2, Set3 Car" (Set1-3 情報入力: 自動車)	
○ Recall (リコール)	
○ Rec (入力)	
- Menu "Download via PC" (PCダウンロード)	
- Menu "Config System" (詳細設定メニュー)	
○ Backlight : ON/OFF (バックライト ON/OFF)	
○ Temperature : Celcius/Fahrenheit (温度単位設定)	
○ RPM : Slots (回転数設定)	
○ Speed : Slots (速度設定)	
○ Default : Pressure (圧力設定)	
○ Set : Karting/Car (KART/CAR 選択)	
○ Version (バージョン情報)	
○ Return (リターン)	
- Menu "Power OFF" (電源 OFF メニュー)	
Conditions de garantie (保障内容)	
Dommages et responsabilités (故障と保障条件)	
Mise au rebut (処分方法)	
ALFANO VISION	

## 商品紹介

この度は ALFANO 製品ご購入誠にありがとうございます。《 **VISION** 》。 **VISION** はお使いのパソコンと実際のコース上データを競合解析する完璧なソフトです。 実際、世界中最高峰のレースシーンに対してクイックに、そして完璧な解析でサポートします。 言い換えるとパソコンと総合することによって、あなたのレースシーンから、退屈を防ぐことができます。

**VISION** は手のひらサイズのポータブル計測器で、赤外線センサーを持ち、PRO+, PRO+v2, AStrO, AStrOv2, AStrO4T, AStrO4T\_formula, AStrOv2\_formula 製品を用いることが可能です。 **VISION** の特徴としては、4つの解析ポートを持ち、それぞれがシリアルナンバー管理のもと迅速な解析と、細部にわたる過去のデータ保存を行います。

**VISION** は以下の機能を兼ねております：

- タイヤ温度、路面温度等 (A481) センサーを用いて計測可能です。走行終了後 (OUT), 走行前 (IN) に分けて計測し、2つのデータ合わせてを解析します。
- 手動でタイヤ空気圧を設定し、走行終了後 (OUT), 走行前(IN)に分けて測定し、その差を解析可能です。
- 最大4台のラップ、区間タイムを計測可能です。
- 《 RS232 》ポートを用いてデータ転送を行います、転送プリンターには 《 SEIKO DPU-3445-20 》を用います。
- USB ポートは《 A-421 》を用いてデータ転送を行います、お使いのパソコンを用いてより詳細な解析を行うためには ALFANO ソフト《 VisualDATA 》を用います。

**VISION** を用いることによって、レースシーンにおいてエンジニア、メカニック、ドライバーに大きなアドバンテージをなすことを確信しています。

**ALFANO** 製品はお客様のニーズに答えられるよう全力を尽くしております、操作性、利便性、信頼性 etc 全てにおきましてお客様の現場の声を大切にしております。 ご意見、ご要望等ございましたら、いつでも、お気軽に弊社下記連絡先までご連絡の程お待ちしております。

株式会社 栄光  
〒468-0052 愛知県名古屋市中天白区井口1丁目1709  
Tel :052-803-7055  
[www.eikoms.com](http://www.eikoms.com) [mail@eikoms.com](mailto:mail@eikoms.com)

## Copyright (著作権)

### **Copyright © 2004 Alfano, S.A. Tous droits réservés.**

La reproduction, le transfert, la distribution ou le stockage d'une partie ou de la totalité du contenu de ce document, sous quelque forme que ce soit, sans l'autorisation écrite préalable d'Alfano S.A., est interdite.

**Brevet d'invention E.P. 0632350:** "Chronograph system provided on competition machines or similar devices allowing the user to display instantly and precisely an overview of his accomplished performances". Tous droits réservés.

**ALFANO VISION** est une marque commerciale d'Alfano S.A.

Alfano S.A. applique une méthode de développement continu. Par conséquent, Alfano S.A. se réserve le droit d'apporter des changements et des améliorations à tout produit décrit dans ce document sans aucun préavis.

**ALFANO S.A.** ne peut en aucun cas être tenue pour responsable de toute perte de données ou de revenus, ainsi que de tout dommage particulier, incident, consécutif ou indirect. Le contenu de ce document est fourni « en l'état ». A l'exception des lois obligatoires applicables, aucune garantie sous quelque forme que ce soit, explicite ou implicite, y compris, mais sans s'y limiter, les garanties implicites d'aptitude à la commercialisation et d'adéquation à un usage particulier, n'est accordée quant à la précision, à la fiabilité ou au contenu du document. Alfano S.A. se réserve le droit de réviser ce document ou de le retirer à n'importe quel moment sans préavis.

## 備考

この説明書におきまして以下のような図が、特にご注意をいただきたい時や重要な情報を促すために出てきます、ご注意くださいませ。



=安全上または、機材破損を防ぐためにご注意ください。



=完全に安全なデータ収集システムの活用法と付加的で役に立つ情報です。



= より早く、正確に活用するための1ポイントアドバイスです。

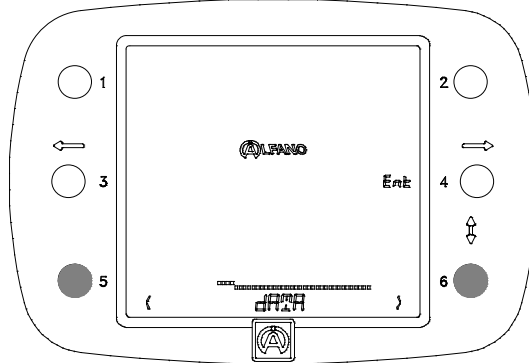
より正確な理解と使用方法をお伝えするために、125項目以上の文章と、説明画、写真を用いてご説明していきます。



注意点を機材のパート別に促していきます。各注意点を十分に理解したうえでご使用ください。

## 項目別説明

**VISION** 電源 ON：下記図における5、6ボタンを同時に2秒間長押しします。 ボタンを離すと、電源 ON が実行され自動的に「DATA」ポジションが表示されます。



**手動電源 OFF**：「DATA」ポジションより、5ボタンを1度押すと「POWER OFF」メニューに移り、4ボタンを押すと手動電源 OFF となります。

**自動電源 OFF**：本体を何も使用せずに10分間放置すると、自動的に電源 OFF となります。

**バッテリー残量警告**：お使いのバッテリー残量が少なくなると、VISION 本体が検知し「CHANGE BATTERY」とディスプレイ上に表示されます。この表示がでたら、早目の電池交換をお勧め致します。4ボタンを押して「OFF」を実行し、本体電源を落としてから、バッテリー交換を行ってください。

-- CHANGE BATTERY --

**電池交換方法**：上記警告メッセージが表示された後は、電池交換を行います。：使用する電池は高品質アルカリ単3電池を必ず使用してください。



### 付属品

A-481, タイヤ、路面温度センサー



SEIKO ポータブルプリンター « DPU-3445-20 »  
用紙サイズ: 110mm



A487, 携帯用ケース



## 'MAIN'メインメニュー'

**DATA (データ)**

- 新しい機能を用いた、4つのデータ解析機能。
- より細かい、データ解析。
- ポータブルプリンターへのデータ転送
- パソコンおよび、VISOR内機能へのデータ転送。

**2 Drivers Chrono (2台計測)**

- 2台測定。100分の1単位での最大99ラップ、9区間の区間タイム計測が可能。

**4 Drivers Chrono (4台計測)**

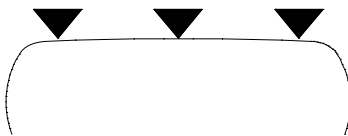
- 4台測定。100分の1単位での最大99ラップ、6区間の区間タイム計測が可能。

**Set1, Set2, Set3 Karting/Car****KARTING (レーシングカート)**

- 3つの一致する各々のメニュー (Set1~3) はそれぞれのタイヤ温度 (路面温度、その他温度) を2つのチャンネル上で測定、記録可能です。: « OUT » 走行前  
« IN » 走行後. さらに、手動でタイヤ空気圧を: « OUT » 走行前  
« IN » 走行後に分けて測定、記録可能です。そして、走行前、走行後のタイヤ温度、空気圧を比較、解析可能です。

**CAR (自動車)**

- « Set1, Set2, Set3 KARTING » と同様必要温度が記録可能です。この場合は、タイヤ温度を「外側」「中央」「内側」の3項目に分けて測定可能です。

**Extérieur (外側) – Centre (中央) – Intérieur (内側)**

◦ « KARTING » もしくは « CAR » の設定確認は« CONFIG SYSTEM »において確認可能です。

**Config System (詳細設定)**

- ここでは、それぞれのパラメーターを表示します。

**Power Off (電源OFF)**

- 手動で VISION の電源を OFF にします。

①

メニューとサブメニューの検索方法:

- 6 ボタンを押すことによって、メニューを順に送っていきます。
- 5 ボタンを押すことによって、メニューを逆送りしていきます。

メインメニューにいる時の判断:

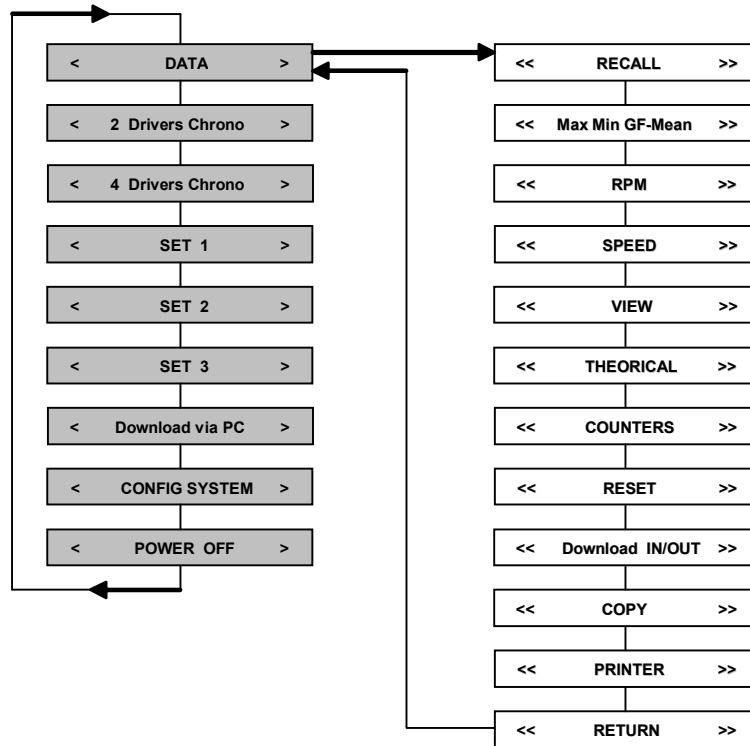
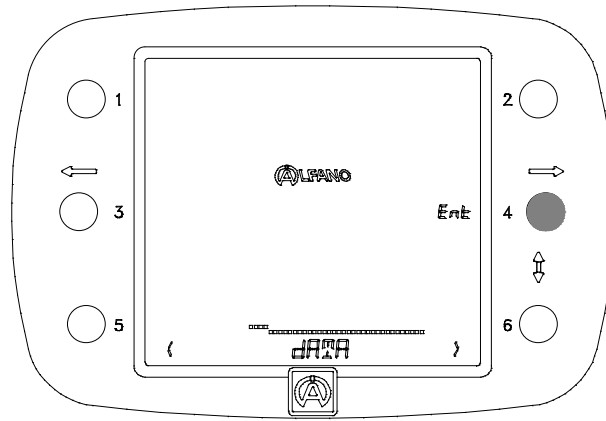
ディスプレイ下段矢印(左右)が1つの矢印の時は、操作メニューはメインメニューとなります。

サブメニューにいる時の判断:

ディスプレイ下段矢印(左右)が2つの矢印の時は、操作メニューはメインメニューとなります。

VISOIN 電源ONを行うと、以下のモードとなります：

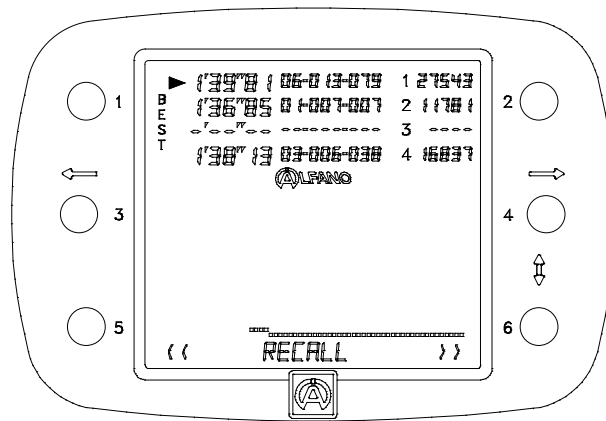
< DATA >



« DATA »モードより、ボタン4 « ENT »を1回押すと、IVISIONはこのモードへと移ります：

<< RECALL >>

« RECALL »モードにおいて、全てのラップを確認することが可能です。VISION は 4 つのチャンネルを持ち、全てのチャンネルは、他の ALFANO 本体と全てのデータ共有が可能です。



例：チャンネル3以外、それぞれ別のALFANO本体からチャンネル1、2、4に対して走行データを記録させました。：

▶ 1'39"81 | 06-013-079 (1) 27543

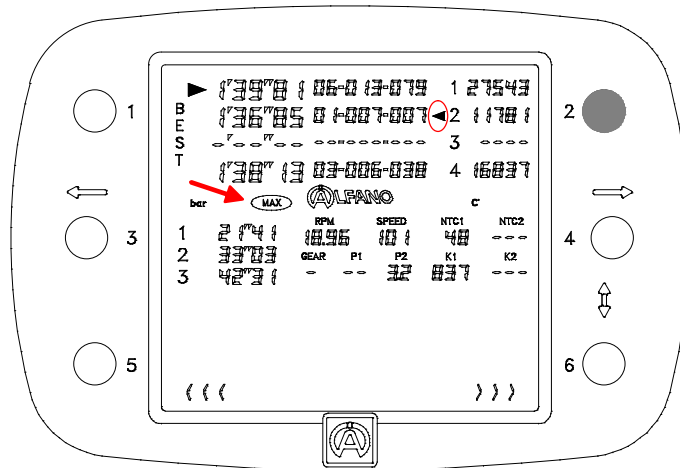
上記表示において、総合計、79周走行し、最終セッションが6セッションの13周目に走行を終え、最初の1周目タイムが « 1'39"81 »を意味します。その横の5桁の数字« 27543 »はデータ取得したALFANO 本体のシリアルナンバーを表示します。そのシリアルナンバーの左隣にある数字(赤丸)は本体に入力したチャンネル番号を示します。

全チャンネル説明：

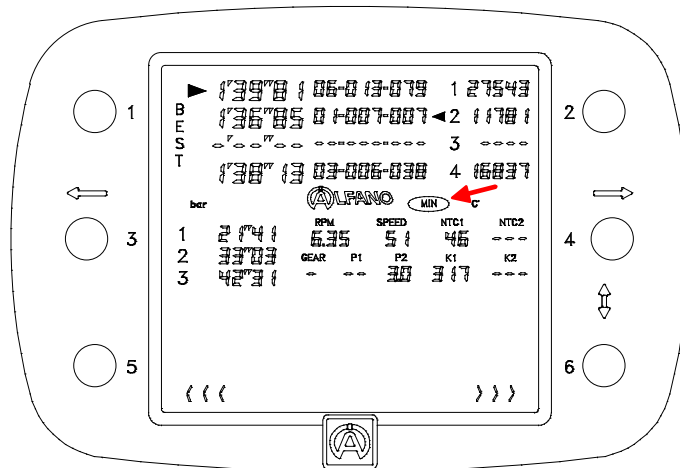
チャンネルに対するボタンは以下の通りです、

- ボタン1=チャンネル1,
- ボタン2=チャンネル2,
- ボタン3=チャンネル3,
- ボタン4=チャンネル4,

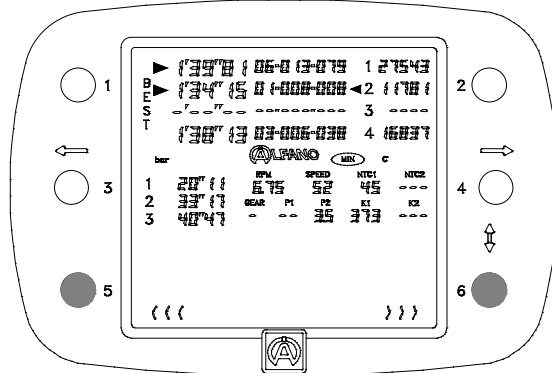
続いて図を用いた例として：ボタン2を押すとチャンネル2の内容を表示します。選択チャンネル右側に小さな矢印で表示し、そのラップデータ詳細をディスプレイ中央の ALFANO ログの下に表示されます。



3 区間に分けたそれぞれの最大、最小数値を表示いたします：回転数、スピード、温度、圧力が2秒間隔で、赤い矢印が左右に移ると同時に最大、最小が表示されていきます。



ラップ情報を進めて表示するためには、ボタン 6 を押します。



ラップ情報を戻す場合にはボタン 5 を押します。

他のチャンネルを確認するために、必要なチャンネル数のボタン「1」～「4」を押してください。

例：チャンネル 4 を選択した場合、矢印がチャンネル 2 から 4 へ移動します。詳細データ表示はその、矢印で選択したチャンネルのデータのみ可能です。

選択されたチャンネルを一度すぎると、そのチャンネルの最終ラップが再度表示されます。これはそれぞれのチャンネルデータをとっさに比較でき、ボタン 1 つで切り替えが可能です。

例：チャンネル 2 とチャンネル 4 のデータ比較を行いたい場合、同一ディスプレイ上においてラップタイム、区間タイムを見ながら、もう一方のチャンネルボタンを押すと、簡単に必要データの比較が行えます。：ラップ毎の回転数、スピード、温度、圧力が比較可能です。

そのチャンネルメニューから出るには、もう一度同じチャンネルボタンを押すと「RECALL」モードに戻ります。その後、チャンネル選択がされていない状態で、ボタン 5 もしくは 6 を押すと、他のメニュー移行が可能です。

**MEMO**：「RECALL」モードからは、直接、その他数値の表示モードに移行可能です。

- 「MAX MIN GF-MEAN」 [各数値最大・最小]
- 「RPM」 [回転数]
- 「SPEED」 [スピード]
- 「VIEW」 [ビューモード]

これら上記 4 つのメニューは、「RECALL」モードで選択したラップがそのまま反映されます。 解析したいラップデータをあらかじめ、「RECALL」モードで選択しておいてください



下記の動作手順説明 が行われました：

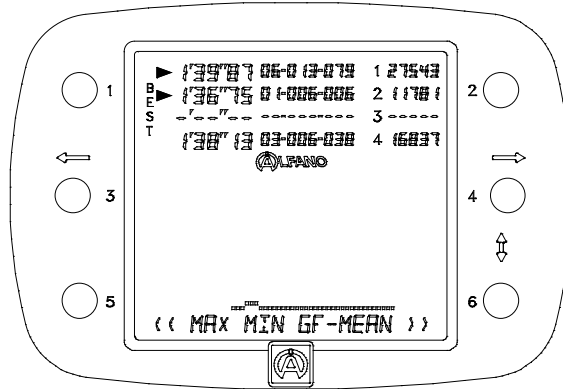
- チャンネル選択
- チャンネル変更
- サブメニューへ戻り、他のメニューへの移行

この手順 方法は、全てのサブメニューに対して同じです

« RECALL »モードより、1 回ボタン 6 を押すと、次のメニューへと移行します：

<< MAX MIN GF-MEAN >>

このメニューにおいては、各数値の最大、最小を確認することが出来ます：回転数、スピード、温度、圧力を« RECALL »モード同様に表示することが可能です。すべての区間タイムにおける最大値と最小値が確認できます。GセンサーにおいてGフォース測定がされていれば、自動的に VISION が計算し、そのラップ毎の平均Gフォースを表示します。

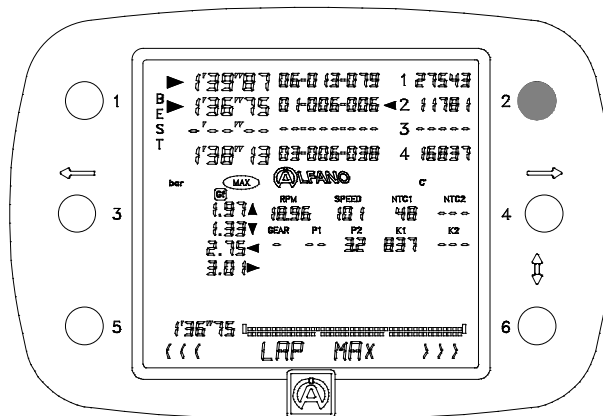


例：チャンネル2ボタンを押すと、ALFANOロゴの下にその選択したラップデータが表示されます

最初にディスプレイ上には« LAP MAX »が表示されます：

- 最大値：回転数、スピード、温度、圧力
- 平均値：前後・左右Gフォース

全ラップデータ確認可能です

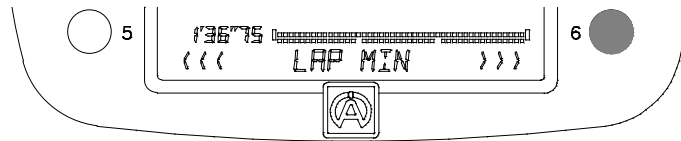


その後、ボタン6を1回押す

そうすると、ディスプレイ上に「LAP MIN」と表示され：

- 最小値：回転数, スピード, 温度, 圧力
- 平均値：前後・左右Gフォース

全ラップデータ確認可能です

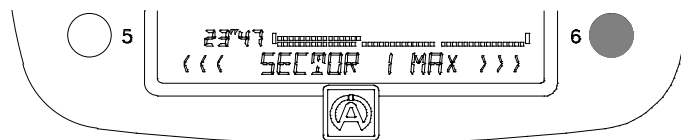


もう1度ボタン6を押します

そうすると、ディスプレイ上には「SECTOR 1 MAX」と表示され：

- 最大値：回転数, スピード, 温度, 圧力
- 平均値：前後・左右Gフォース

第1区間を確認可能です,

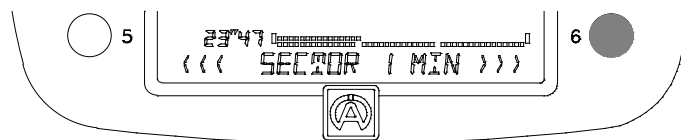


もう1度ボタン6を押します

そうすると、ディスプレイ上には「SECTOR 1 MIN」と表示され：

- 最小値：回転数, スピード, 温度, 圧力
- 平均値：前後・左右Gフォース

第1区間を確認可能です,



同様に、区間別によって表示、確認が可能です。.

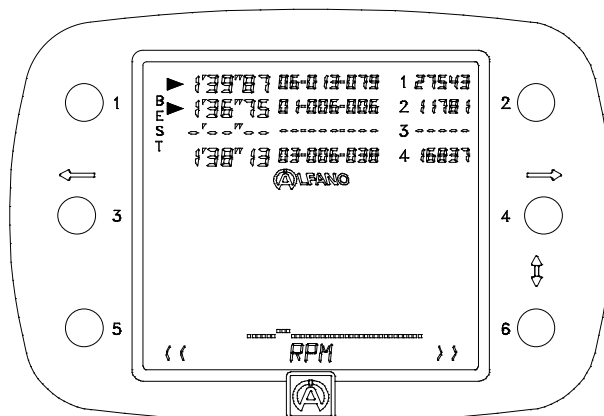
もとに戻るためには、ボタン5を押してください。

もう1つのチャンネルデータを表示します, 必要なチャンネルボタンを押し、選択します。 実際  
に,« RECALL »メニュー同様1~4ボタンで選択します。

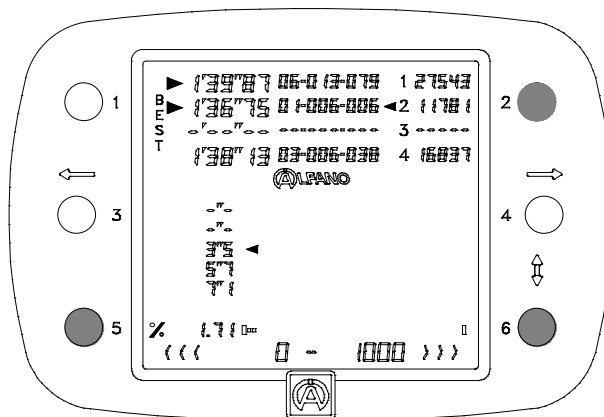
« RECALL »モードから、6 ボタンを2回押すと、次のメニューへと移行します：

<< RPM >>

このメニューにおいては、エンジン回転数をチャンネル別に表示可能で、1000～250500 rpm の範囲における全体使用率を% (パーセンテージ表示) と1/10秒単位での使用時間表示で確認できます。 « CONFIG SYSTEM »メニュー内で、回転数レンジ (単位 250/500/1000) を設定可能です。



例： « RECALL »モード同様、チャンネル選択としてボタン2を押します。 そうすると ALFANO ロゴの真下に詳細データが表示されます。



\* この例は、VISION 回転数レンジ設定を 1.000 で行ったもので、以下の通りです

まず第1に、

VISION ディスプレイ上には小さな矢印が表示され、エンジン回転数使用域表示として **0~1.000** rpm 回転レンジが表示 (ディスプレイ下段) されます :

- ラップタイム 1'36"75 の中の **3"5** 秒間 ( **1.71%** ) 0 ~1000rpm を使用

ボタン 6 を 1 度押します,

VISION ディスプレイ上には小さな矢印が表示され、エンジン回転数使用域表示として **1.000 ~ 2.000** rpm 回転レンジが表示 (ディスプレイ下段) されます :

- ラップタイム 1'36"75 の中の **5"7** 秒間 ( **2.78%** ) 10000 ~2000rpm を使用

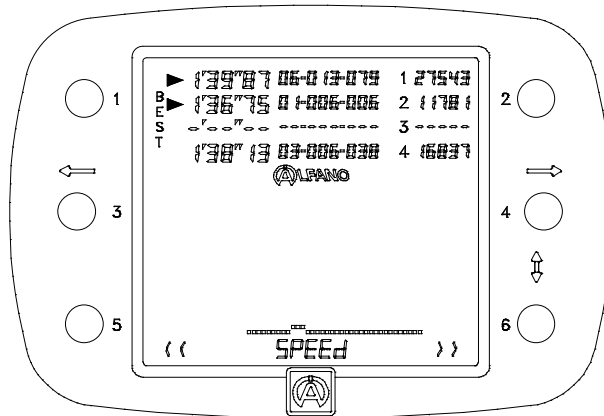
その後の使用回転数域も同様に、VISION 本体において計算され、表示されます

回転数域を戻って知りたい時は、ボタン 5 を押してください.

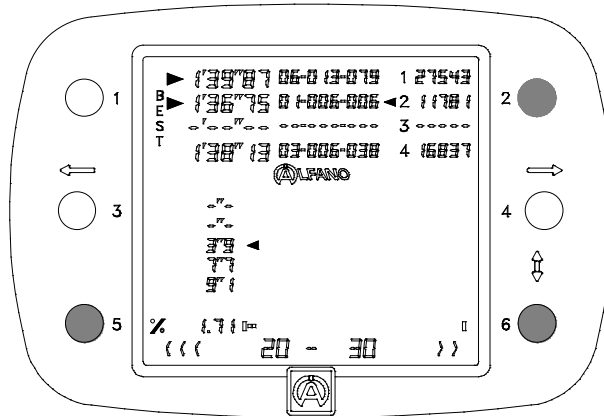
« RECALL »モードから、6 ボタンを3回押すと、次のメニューへと移行します：

<< SPEED >>

このメニューにおいては、正確なスピードを« 5 / 10 / 20 Km/h »もしくは« 5 / 10 / 20 mpl »レンジにおいて、1周のラップタイム内のスピード使用時間と% (パーセンテージ表示) によって、解析可能です。使用スピードレンジは« CONFIG SYSTEM »メニュー内で設定可能です。



例：« RECALL »モード同様、チャンネル選択としてボタン2を押します。、そうすると ALFANO ロゴの真下に詳細データが表示されます。



\* この例は、VISION スピードレンジ設定を 10 Km/h もしくは 10 mp で行ったもので、以下の通りです

初めに

絵にある VISION ディスプレイは選択ラップの最初のスピード使用域 **20 から 30** km/h もしくは mpl 内を小さな矢印を用いて表示しています :

- ラップタイム 1'36"75 内 **3"9** 秒間このスピード域を使用しており、全体の **1.71%**を占めます。

ボタン 6 を 1 回押すと次の使用スピード域に移ります,

VISION ディスプレイは選択ラップの次のスピード使用域 **30 から 40** km/h もしくは mpl 内を小さな矢印を用いて表示しています :

- ラップタイム 1'36"75 内 **7"7** 秒間このスピード域を使用しており、全体の **2.78%**を占めます。

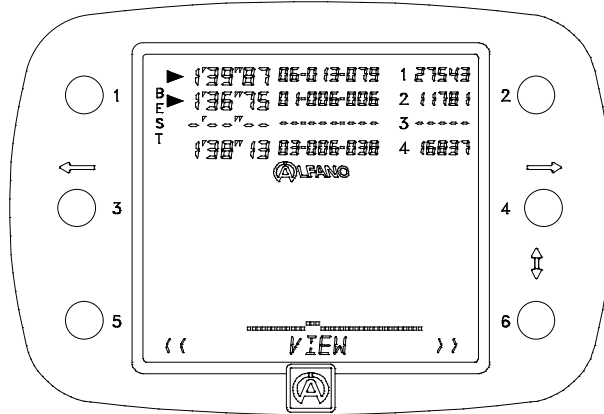
VISION 本体は、次のレンジ ( 使用域 )、使用時間を計算し表示します。

前の使用域データに戻りたい時は、ボタン 5 を押してください。

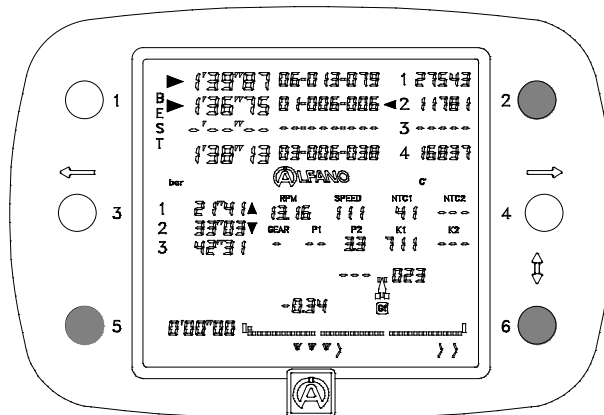
« RECALL »モードから、6 ボタンを4回押すと、次のメニューへと移行します：

<< VIEW >>

この« VIEW »メニューにおいては、選択した1周のラップデータを完全に視覚化します。実際に、VISION は記憶された全ラップを全て詳細解析 ( 0.1 秒単位 ) 可能です。例：ラップタイムが 1'39"87 , 1周を998スクリーンに分けて、詳細データを表示します。それぞれの詳細データがリアルタイムで表示されていきます：回転数、スピード、温度、圧力、前後左右Gフォース、ギアポジション前後、左右に分けて教示されることによって、アクセレーション、ブレーキング、ステアリングまでの詳細解析が、VISION ディスプレイ上で行えます。



例：« RECALL »同様、チャンネル選択としてボタン2を押します。、そうすると ALFANO ロゴの真下に詳細データが表示されます。



初期状態から« VIEW »モードに入ってからすぐに、VISION はラップ計測スタート表示し、全ての表示ラップの関係を確認できます。(第一区間からのスタートとなります)。



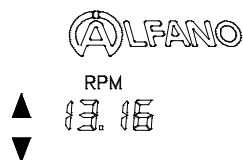
サーキットと車体の状態の入力。

- 2つの右と左の長方形によってコース内のマグネットを表示します。すなわち、スタート・ストップのマグネット表示となります。
- 左上の小さなドット(・)で車体を表示。
- その他のマグネット(区間表示)は小さなドット(・)がライン上での表示で表現されます。(この場合は複数の区間を有します)。

その週のスタートから最後までカバーするためには、ボタン6を始動します。

その周を直接指示するには、ボタン5を始動します。

1周を動かしている間矢印、上下方向に確認することで、その次の回転数移行を確認することができます。エンジン回転数の増減を確認できます。

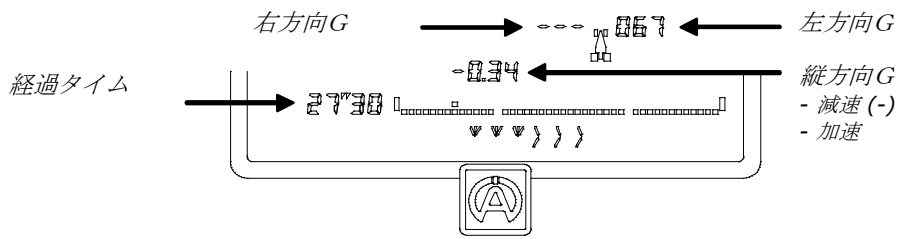


同じくGフォース値の確認も可能です。ディスプレイ下段中央に他の矢印が確認できます。これらの矢印は車体のオンタイムでの数値を表示します。



- 左右4つの矢印によって横方向のGフォースを表示します。矢印の本数によって、そのGフォースの値の大きさを表現します。
- 同じく、中央3つの矢印によって、縦方向のGフォースを表現します。

同じくこれらの値は、数値によっても表示されます。



その他のチャンネルでデータを見るには、表示されているチャンネル（ボタン）を押してください。上の図の場合、1もしくは4で「RECALL」モードに。例：チャンネル4を選択した場合、チャンネル2から4へ矢印が移行します。レビューするためにどれか1つのチャンネルを選択します。

選択チャンネルを離れるときには、そのチャンネルの最後の表示はそのまま、次のチャンネルに移るまで記録されますので、注意が必要です。

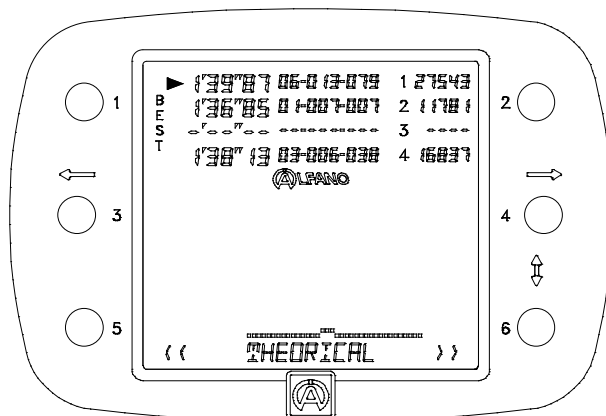
このメニューをでるには、選択チャンネルボタンを再度押します。すなわち、どのチャンネルも選択していない場合は、5もしくは6ボタンで他のメニューへ移ります。

もし、他のラップを解析したい場合は、「RECALL」モードに戻り、選択する必要があります。

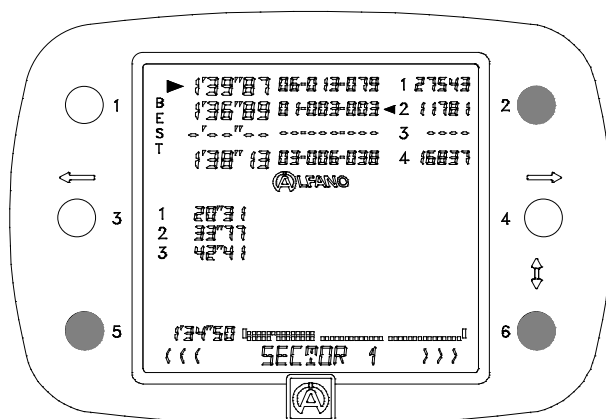
« RECALL »モードから、6 ボタンを5回押すと、次のメニューへと移行します :

<< THEORICAL >>

このメニューにおいては、各周からの区間ベストを見つけ出し、理想最速ラップタイムの表示と解析を行います。このメニューでは、各チャンネルにおけるラップの区間ベストを表示できます。



例：« RECALL »においては、チャンネル2のデータ詳細を見るためには、ボタン2を押すと、ALFANOロゴ下に区間タイムが表示されます。



- 20"31, = 区間1のベスト区間,
- 33"77, = 区間2のベスト区間,
- 42"41, = 区間3のベスト区間,

そして3区間の合計:

- 1'34"50 ;これが理想最速ラップで、ディスプレイ下左に表示されます。
- チャンネル2において、第1区間での最速タイムを自動的に表示します。  
« SECTOR 1 »

もう一度ボタン6を押します,

- チャンネル2において、第2区間での最速タイムを自動的に表示します。  
« SECTOR 2 »

もう一度ボタン6を押します,

- チャンネル2において、第3区間での最速タイムを自動的に表示します。  
« SECTOR 3 »

前の周に戻るためには、ボタン5を押します。



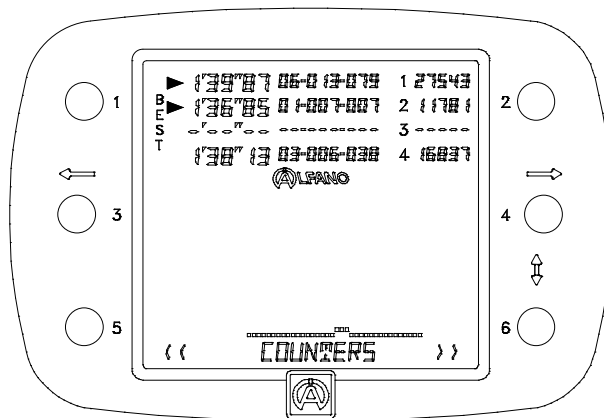
« THEORETICAL » においては、「RECALL」同様、以下の数値解析が可能です :

- 最大-最小Gフォース
- エンジン回転数
- 車速
- VIEW (ビューモード)

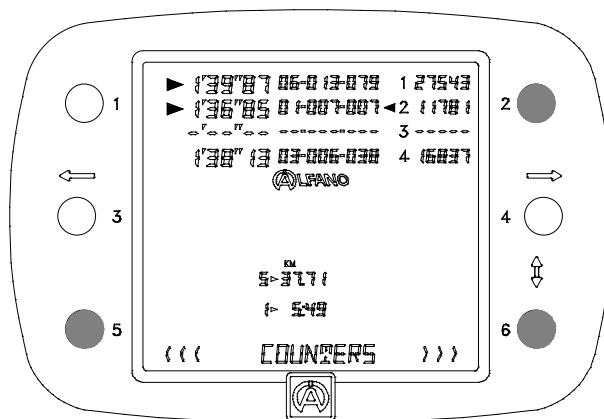
« RECALL »モードから、6 ボタンを6回押すと、次のメニューへと移行します：

<< COUNTERS >>

このメニューにおいては、ALFANO本体が稼動している時間と距離を表示可能です。 2もしくは4の距離カウンターと時間カウンターが確認できます。



例：« RECALL »モードにおいて、ボタン2を押すと ALFANO ロゴの下にカウンターが表示されます。



最初に VISION は N° 1 と N° 5 を表示します。 その後は、VISION は 6 ボタンを押す毎に以下の通りに表示していきます。

- N° 2 と N° 6
- N° 3 と N° 7
- N° 4 と N° 8

その前の周に戻る為には、ボタン 5 を押します。

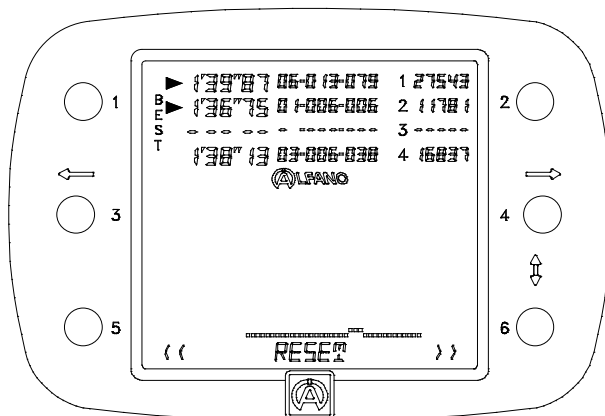
他のチャンネルのデータを見るためには、表示されているボタンを押します、上にあるイラストの場合 1 から 4 ボタンで« RECALL »メニュー同様となります。例：チャンネル 4 を選択した場合、矢印がチャンネル 2 から 4 へ移行します。選択したチャンネルをレビュー可能です。

このメニューからでるためには、選択されているチャンネルのボタンを再度押します；選択していないチャンネルの場合は矢印が表示され、確認メニューへととなります。したがって、どのチャンネルも選択していない場合は、ボタン 5 もしくは 6 で他のメニューへと移行します。

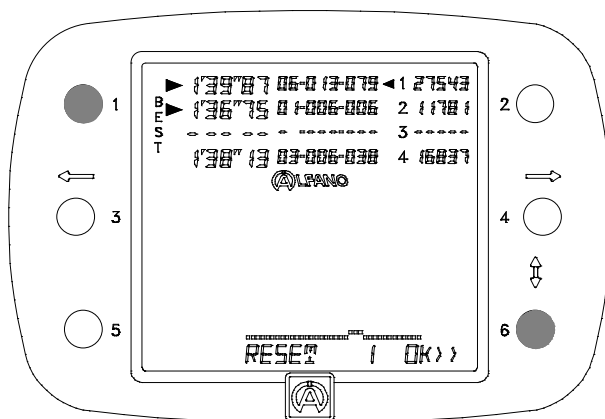
« RECALL »モードから、6 ボタンを7回押すと、次のメニューへと移行します :

<< RESET >>

このメニューからそれぞれのチャンネルデータ削除を行います。



データ削除を行いたいメニューボタンを押すと、そのメニューを小さな矢印が示します。



チャンネル選択後、ボタン6 を押してデータ削除を行います。

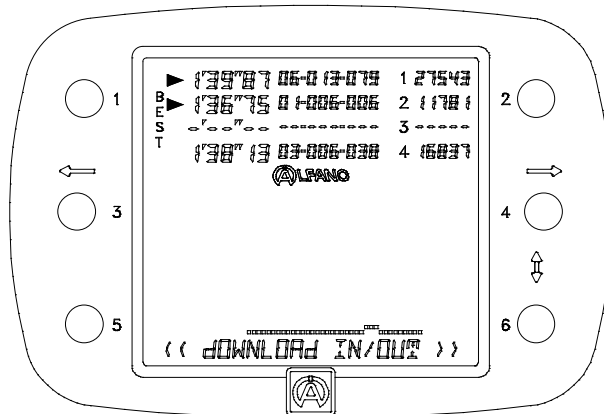
データ削除したチャンネルは、上図チャンネル3のように小さなラインとなり、データ削除完了と、新しいデータ開始可能な合図です。

« RESET »の別の方法として、削除したいチャンネルボタンを3秒間長押しすると、そのチャンネルデータは削除されます。

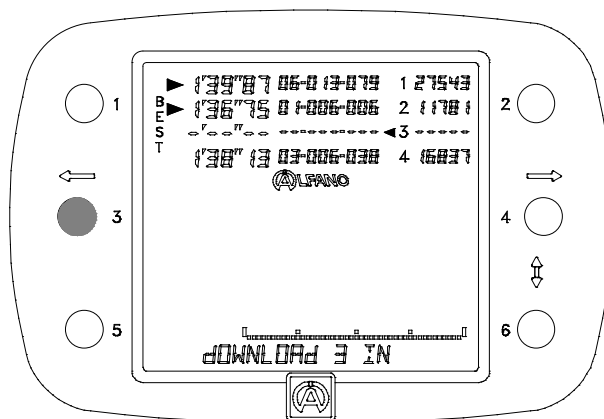
« RECALL »モードから、6 ボタンを8回押すと、次のメニューへと移行します：

<< DOWNLOAD IN/OUT >>

このメニューからは、お使いの ALFANO 本体から VISION、VISION からパソコンへのデータ転送を行います。適応本体モデルは PRO+, PRO+v2, AStrO, AStrOv2, AStrO4T, AStrO4T\_formula, AStrOv2\_formula となります。

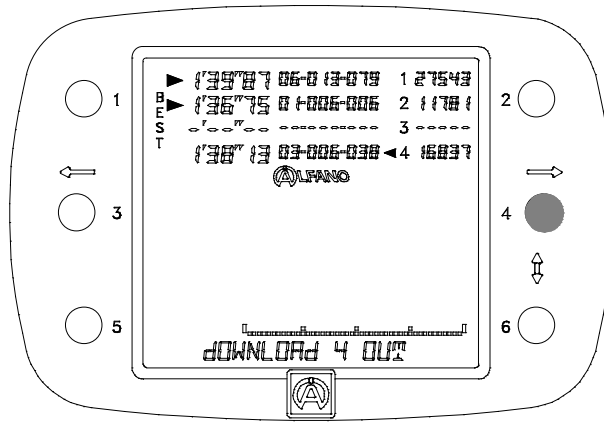


データインポート (ALFANO 本体から、VISION) を行う場合、インポートするチャンネルはデータが空である必要があります。



チャンネル3を選択すると、「DOWNLOAD 3 IN」と表示されます。データ転送を行う場合 VISION 本体ポート« IN »とします。

また、各チャンネルから、データエクスポート（VISION からパソコン）を行う場合、VISION 本体内にデータが残っているチャンネルを選択する必要があります。（下図チャンネル 1、2、4）。

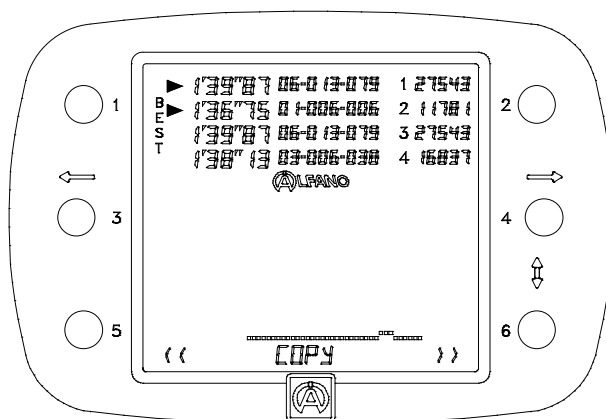


例：チャンネル 4 を選択すると、「DOWNLOAD 4 OUT」と表示されます。その後 ALFANO USB ドライバー（A-421）をパソコンから VISION 背面「OUT」ポートに繋ぎ、パソコンにデータ転送を行います。

« RECALL »モードから、6 ボタンを9回押すと、次のメニューへと移行します :

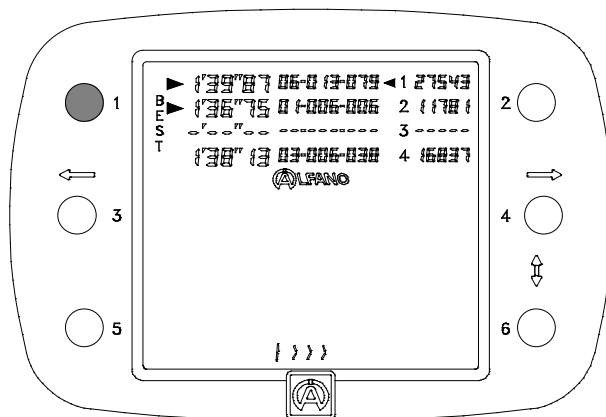
<< COPY >>

このメニューでは、1つのチャンネルデータをコピーし、他の空になっているチャンネルへコピーを行います。

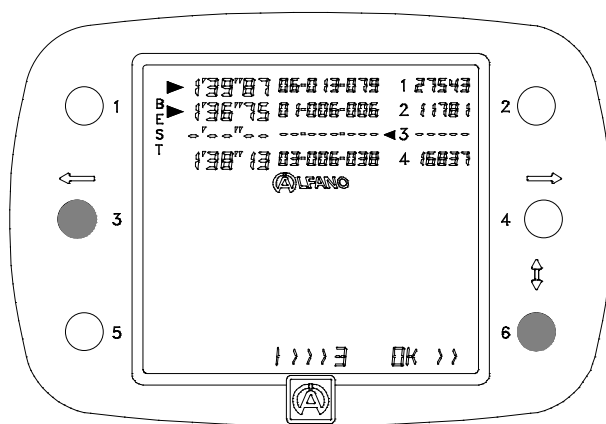


この場合、VISION 本体にはデータがあるチャンネルと空のチャンネルがある必要があります。

例：ボタン1を押すと、小さな矢印でそのチャンネルを示します。その選択チャンネルデータを空いているチャンネル3にコピーすることが出来ます。



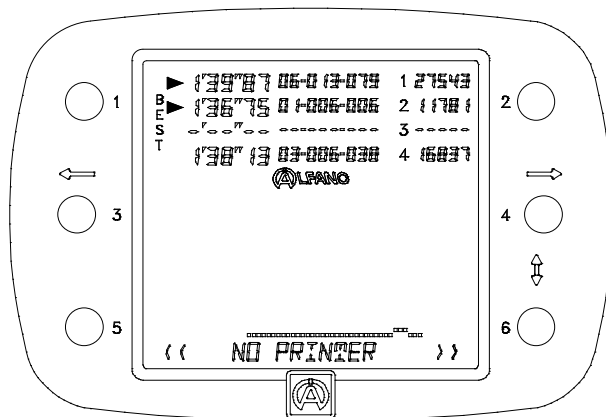
チャンネル 3 を選択し、ボタン 6 [OK] を押すと、コピー完了です。



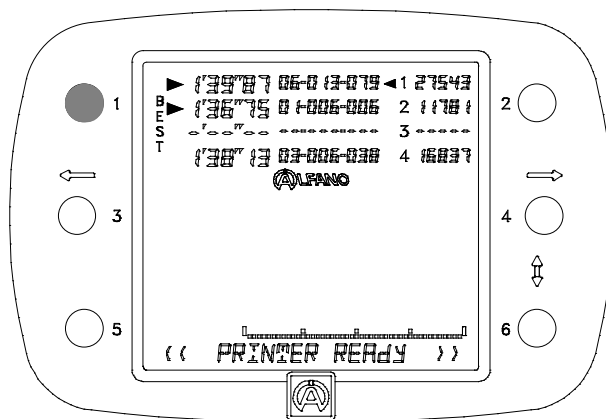
« RECALL »モードから、6 ボタンを10回押すと、次のメニューへと移行します：

<< PRINTER >>

このメニューでは、取得データをポータブルプリンターへ移行することができます。



まず初めに、プリンター[SEIKO DPU-3445-20]を VISION 背面 RS232 ポートに接続します。そうすると、ディスプレイ下に« PRINTER READY »と表示されます。その後は、プリンターへ転送したいチャンネルボタンを押すと、プリンターへのデータ転送が開始されます。



ALFANO Data Acquisition System

Serial Number : 40000418 , Channel 1

Date : .....

Track : .....

Driver : .....

Weather : .....

Eng.No. : .....

Carb.No. : .....

Carb.Hi : .....

Carb.Lo : .....

Gear R. : .....

F.Width : .....

R.Width : .....

Exhaust : .....

Tire : .....

Engine : .....

WHEEL SETUP:

FL: ..... FR: .....

RL: ..... RR: .....

TYRE PRESSURE:

FL: ..... FR: .....

RL: ..... RR: .....

COMMENTS: .....

---

Race Results

Timing Table

NO	DRIVER	TIME	SPLIT 1	SPLIT 2	SPLIT 3	SPLIT 4	SPLIT 5
1	1	55:41	20:52	11:14	12:51		
2	2	51:27	20:26	11:03	12:58		
3	3	49:52	20:24	10:56	12:51		
4	4	50:42	20:26	10:56	12:51		
5	5	49:50	20:26	10:56	12:48		
6	6	49:01	20:26	10:56	12:49		
7	7	49:27	20:26	10:56	12:52		
8	8	49:02	20:26	10:56	12:51		
9	9	49:52	20:26	10:56	12:52		
10	10	49:50	20:26	10:56	12:52		
11	11	49:08	20:26	10:56	12:54		
12	12	49:01	20:26	10:56	12:50		

Summary: BEST LAP: 49:01 (NO. 6) SPLIT 1: 20:26 SPLIT 2: 10:56 SPLIT 3: 12:49 SPLIT 4: SPLIT 5:

---

Max & Min Table

NO	DRIVER	ENGINE RPM	SPEED Km/h	WHEEL °
1	1	5671	2627	557
2	2	5127	3388	622
3	3	4976	3876	622
4	4	5042	3877	622
5	5	4976	3798	622
6	6	4977	3944	622
7	7	4977	3788	622
8	8	4976	3881	622
9	9	4976	3924	622
10	10	4976	3774	622
11	11	4976	3874	622
12	12	4976	3874	622

---

Splits Min and Max for Selected Lap on Channel 1

NO	DRIVER	ENGINE RPM	SPEED Km/h	WHEEL °
1	1	5671	2627	557
2	2	5127	3388	622

---

RPM Statistic Table for Selected Lap on Channel 1

RPM	TIME S
5000 - 6000	0:20 0:17
5000 - 3000	0:50 0:46
3000 - 1000	7:46 6:40
1000 - 1000	0:10 7:49
1000 - 1000	0:10 6:40
1000 - 1000	0:10 7:40
1000 - 1000	0:10 7:40
1000 - 1000	0:10 7:40
1000 - 1000	0:10 7:40
1000 - 1000	0:10 7:40
1000 - 1000	0:10 7:40
1000 - 1000	0:10 7:40

---

SPEED Statistic Table for Selected Lap on Channel 1

SPEED	TIME S
50 - 60	1:14 1:04
60 - 70	1:18 1:08
70 - 80	1:22 1:12
80 - 90	1:26 1:16
90 - 100	1:30 1:20
100 - 110	1:34 1:24
110 - 120	1:38 1:28

---

Counters

NO	VAL
1	0:11
2	0:03
3	0:03
4	0:03

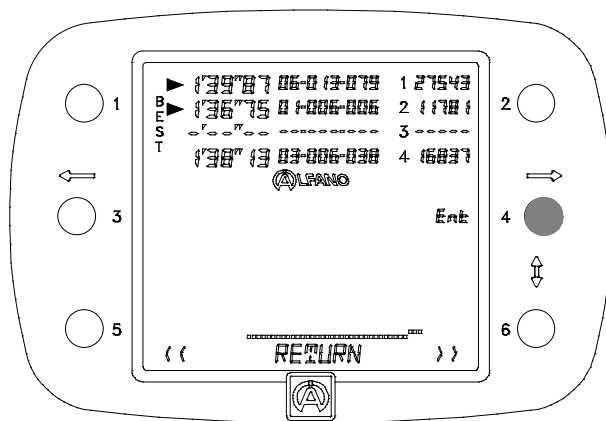
---

NO	VAL
1	0:05
2	0:05
3	0:05

« RECALL »モードから、6 ボタンを11回押すと、次のメニューへと移行します：

<< RETURN >>

このメニューからは« DATA »メニューよりメインメニューへ戻ることが出来ます。

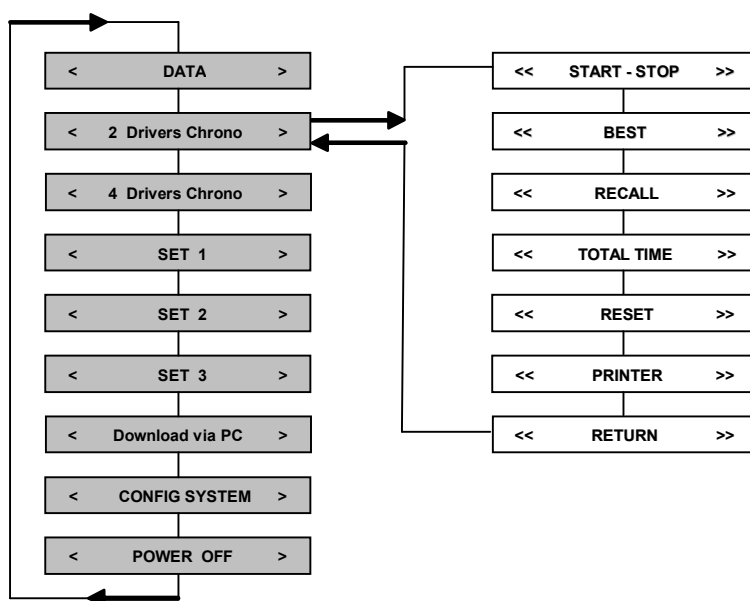
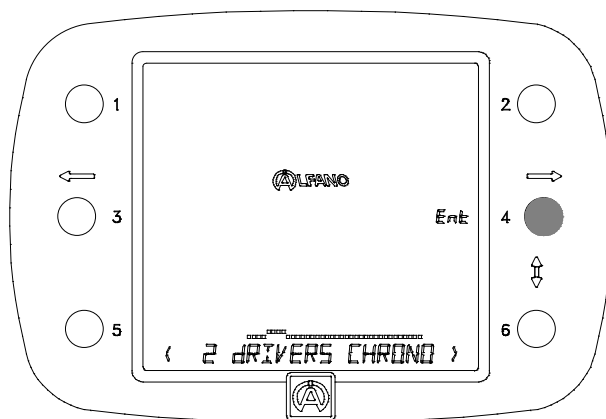


ボタン4 « ENT »を押します

« DATA »モードから、ボタン6を1回押すと、次のメニューへ移ります：

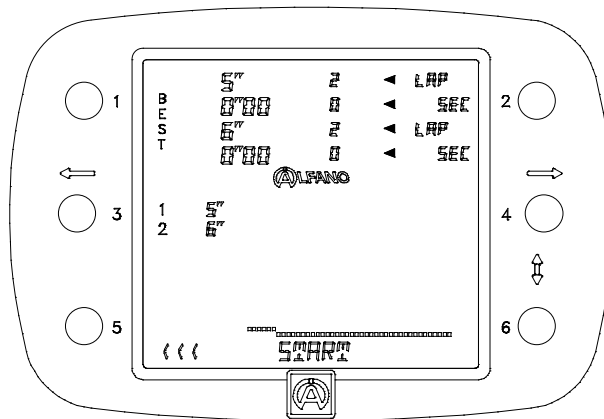
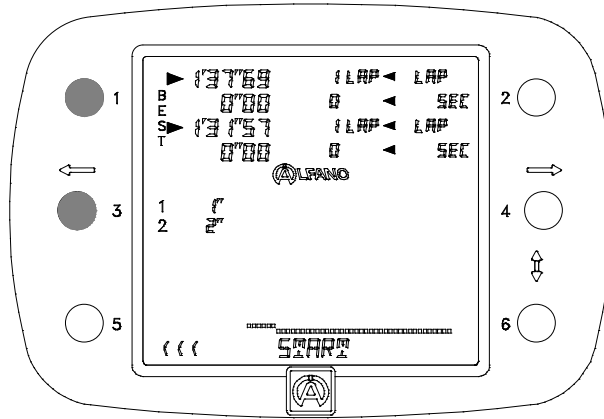
< 2 DRIVERS CHRONO >

このメニューにおいて、2台計測、最大99LAP、9区間が計測可能です。





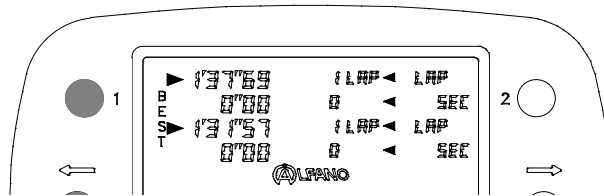
もう一度ボタン「1」もしくは「3」を押すと、「LAP」表示がされ、ラップタイム計測が出来ます。計測ボタンを押した後は5秒間ラップが表示され、その後カウンター表示へと戻ります。



ALFANO ロゴの下には、それぞれのカウンターが常時表示されます。これによって、区間認識を有効に活用できます。

ラップタイム計測は、同じくボタン「1」もしくは「3」を押すことによって、最大99ラップまで計測可能です。

注意：ラップタイムにおいて、ベストラップが計測されたときには、ディスプレイ左 **BEST** 近くに矢印が表示されます。

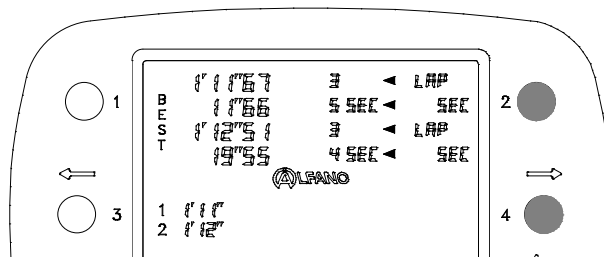


#### 区間タイム計測:

START モードにおいて、以下のボタンを押します。

ボタン 2、第 1 ドライバーの区間計測を行います。  
 ボタン 4、第二 ドライバーの区間計測を行います。

区間タイムは「**SEC**」ラインに表示されます。



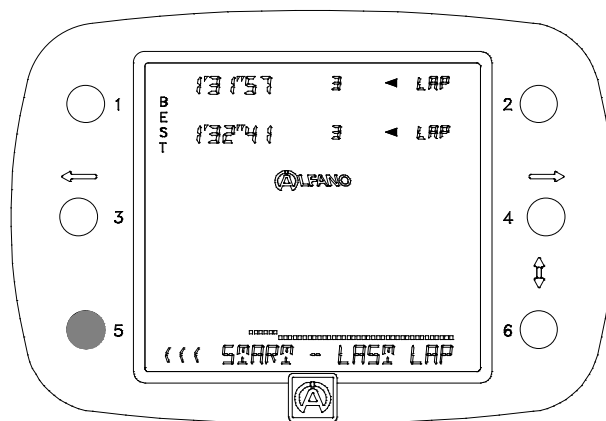
区間タイム計測スタートすぐに、ラップタイム同様、**ALFANO** ロゴ下に、経過タイムが表示され、チャンネル 2 と 4 にはそれぞれの区間タイムが表示されます。

区間タイムは最大 9 区間計測可能です。最初の区間計測から 8 区間目までは、ボタン「**2, 4**」で計測し、9 区間目はボタン「**1, 3**」でラップタイムと同時に、最終区間表示が行われます。

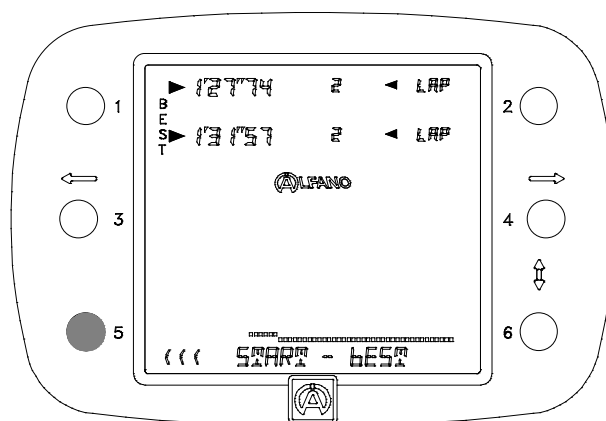
ディスプレイ上表記の意味は以下の通りです、

- 最終ラップタイム « **LAST LAP** »
- ベストラップタイム « **BEST** »
- トータル計測時間 « **TOTAL TIME** »

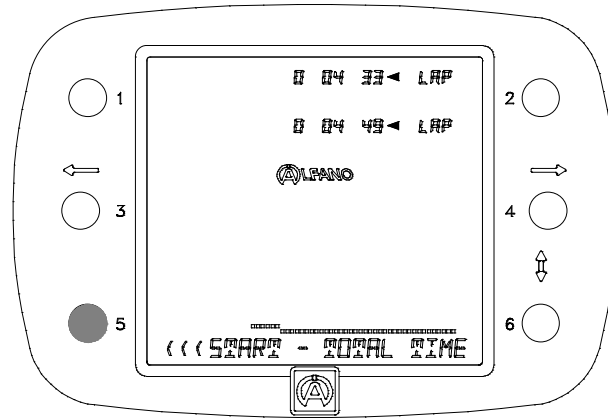
計測中にボタン5を押すことによって、1周前のラップタイム« LAST LAP »が確認できます



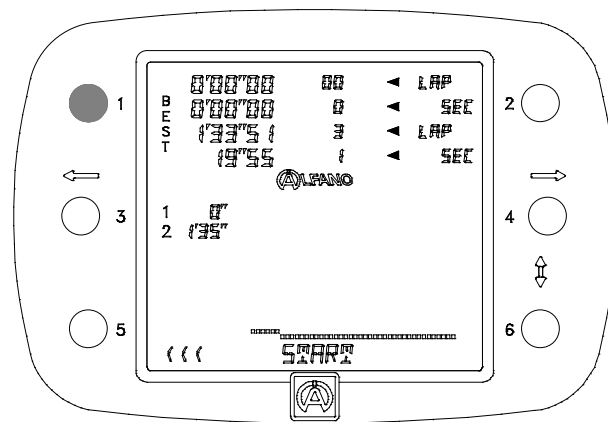
その状態でもう一度ボタン5を押すとベストラップ表示« BEST »が確認できます。



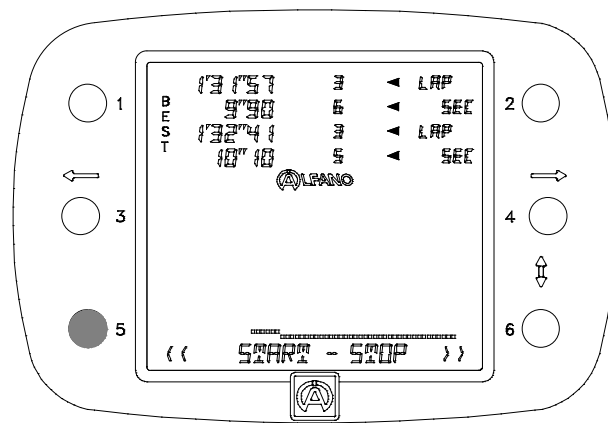
そして、その状態でもう一度ボタン5を押すと合 計経過時間« TOTAL TIME »が確認できます



もう一度ボタン5を押すと« START »モードに戻ります。



計測を停止 « START-STOP » :

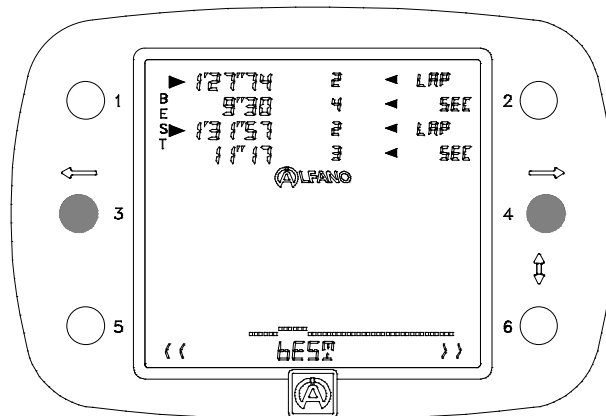


ボタン 5 を 1 秒間押します

« START-STOP »モードから、ボタン 6 を 1 回押すと、VISION は« BEST »モードに移ります

<< BEST >>

この« BEST »メニューにおいては、区間ベストタイム・ベストラップタイムを確認できます。

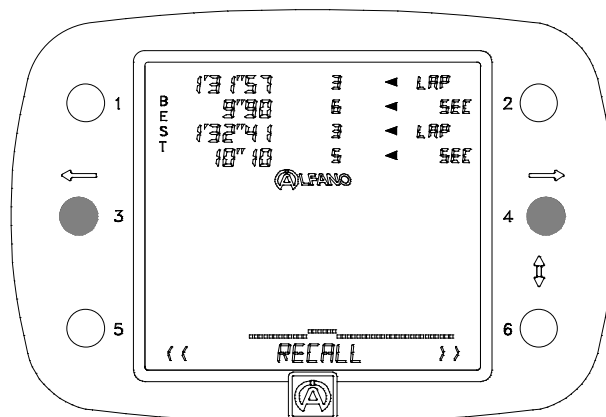


- ボタン 3 を押すことによって、データをバックします。
- ボタン 4 を押すことによって、データを進めます。

« START-STOP »モードから、ボタン 6 を 2 回押すと、VISION は« RECALL »モードに移ります

<< RECALL >>

このメニューにおいては、区間タイム・ラップタイムを確認できます。

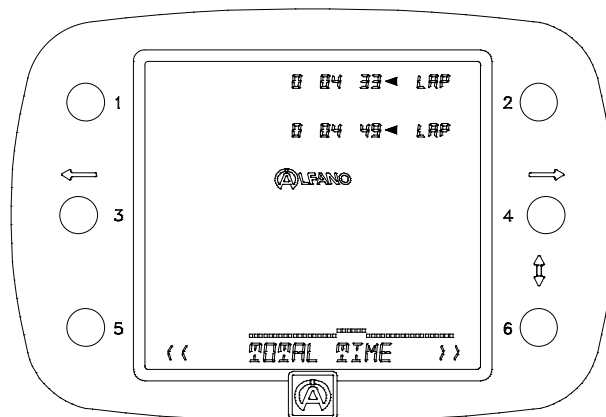


- ボタン 3 を押すことによって、データをバックします。
- ボタン 4 を押すことによって、データを進めます。

« START-STOP »モードから、ボタン 6 を 3 回押すと、VISION は « RESET » モードに移ります

<< TOTAL TIME >>

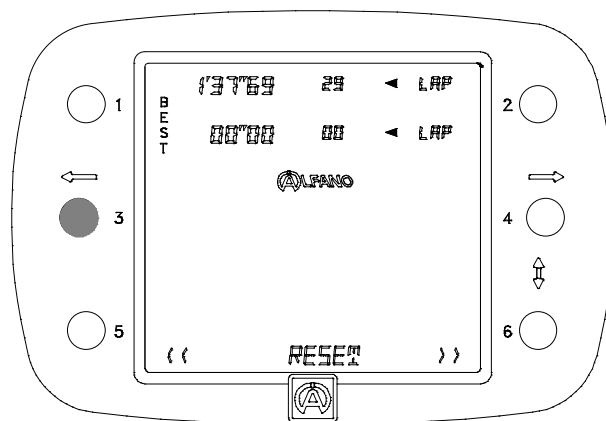
このメニューにおいては、それぞれの合計経過時間を見ることができます。



« START-STOP »モードから、ボタン 6 を 4 回押すと、VISION は « RESET » モードに移ります

<< RESET >>

このメニューにおいて、それぞれのデータ消去を行います。

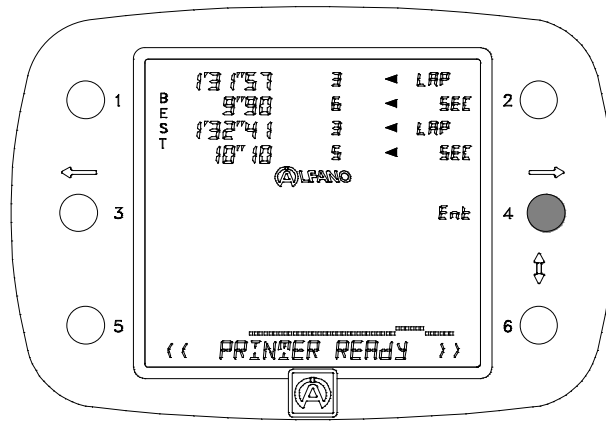


データ消去後は、上図のチャンネル 2 のような表示となります。

« START-STOP »モードから、ボタン 6 を 4 回押すと、VISION は « PRINTER » モードに移ります

<< PRINTER >>

このメニューでは、取得データをポータブルプリンターへ移行することができます。



まず初めに、プリンター[SEIKO DPU-3445-20]を VISION 背面 RS232 ポートに接続します。そうすると、ディスプレイ下に「PRINTER READY」と表示されます。その後は、プリンターへ転送したいチャンネルボタンを押すと、プリンターへのデータ転送が開始されます。

プリントサンプル画像 (用紙サイズ 110mm)

2 Drivers Chronos

Date : \_\_\_\_\_

Track : \_\_\_\_\_

Driver 1: \_\_\_\_\_

Driver 2: \_\_\_\_\_

COMMENTS: \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

Driver 1

LAP	TOTAL	SPLIT 1	SPLIT 2	SPLIT 3	SPLIT 4	SPLIT 5	SPLIT 6	SPLIT 7	SPLIT 8	SPLIT 9
1	59'78	14'97	9'82	20'12	14'87					
2	1'00'97	16'19	8'59	21'21	14'98					
3	59'79	14'02	11'06	19'62	14'99					
4	1'00'81	15'27	9'90	20'07	15'57					

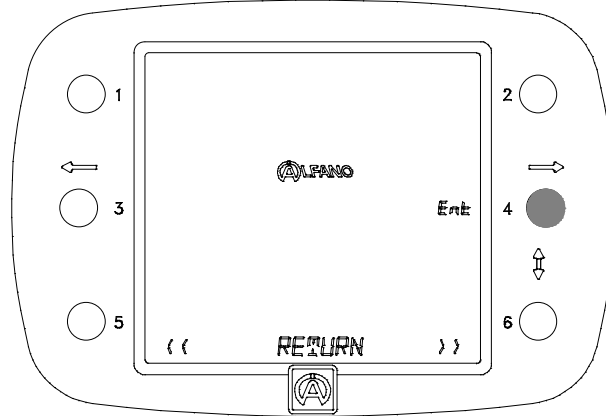
Driver 2

LAP	TOTAL	SPLIT 1	SPLIT 2	SPLIT 3	SPLIT 4	SPLIT 5	SPLIT 6	SPLIT 7	SPLIT 8	SPLIT 9
1	59'97	15'48	9'75	18'10	16'64					
2	59'14	14'24	10'83	18'81	15'26					
3	1'00'50	24'59	19'06	16'55						
4	59'45	15'45								

« START-STOP »モードから, ボタン 6 を 4 回押すと, VISION は « RETURN »モードに移ります

<< RETURN >>

このメニューからは « DATA »メニューよりメインメニューへ戻ることが出来ます。

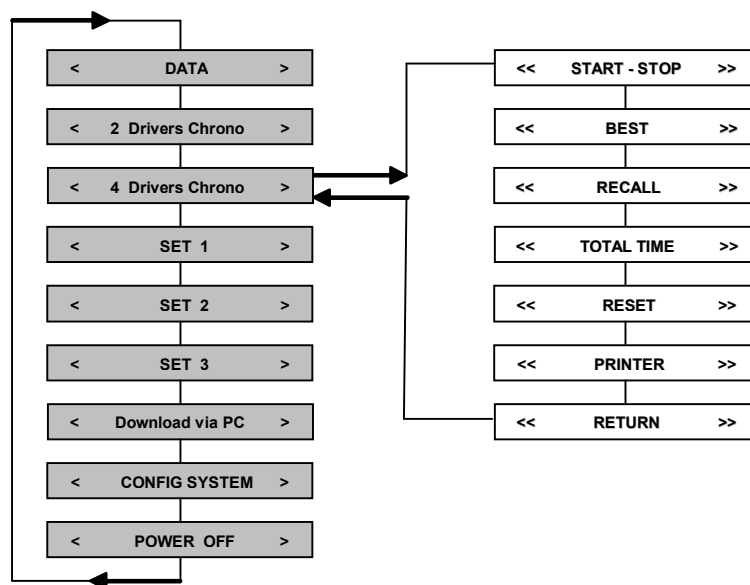
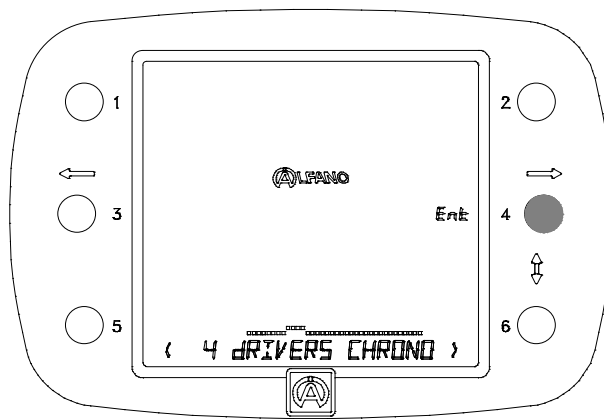


Pressez le bouton 4 « ENT ».

« DATA »モードから、ボタン 6 を 2 回押すと、VISION は次のメニューに移ります：

< 4 DRIVERS CHRONO >

このメニューにおいては、4 台計測、最大 99 ラップと同時に最大 6 区間計測が可能です。



« 4 DRIVERS CHRONO »モードから、ボタン4 « ENT »を押すと、VISION は次のメニューに移ります：

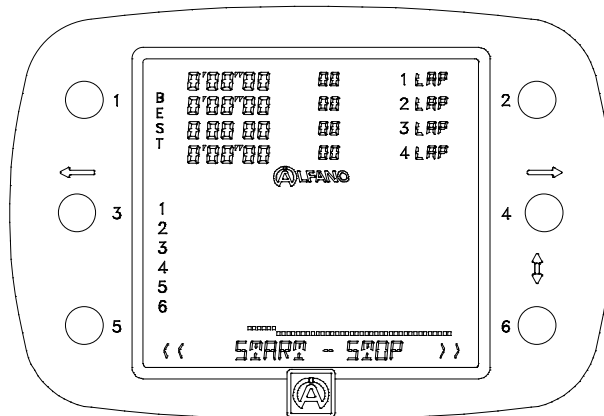
<< START - STOP >>

このメニューは：

- 区間タイム・ラップタイムを計測開始をします。

START 中：

- 各チャンネルの最終タイムを表示します。
- 各チャンネルのベストラップを表示します。
- 各チャンネルの各チャンネルの経過合計タイムを表示します。
- 各チャンネルデータリセットを行います。

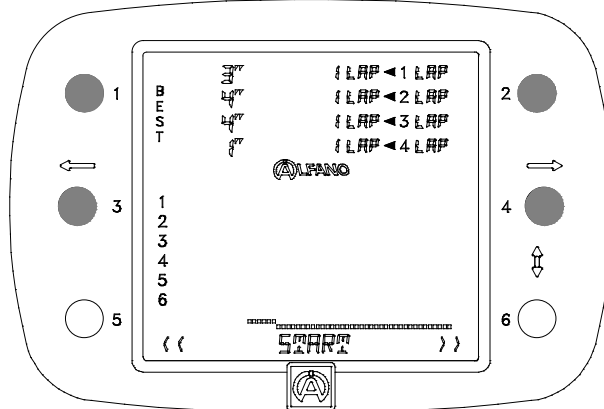


計測開始：

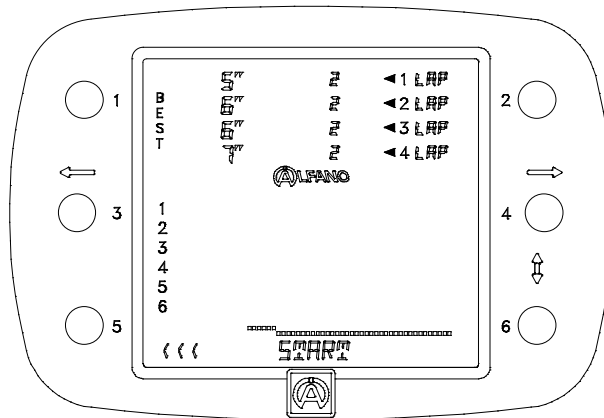
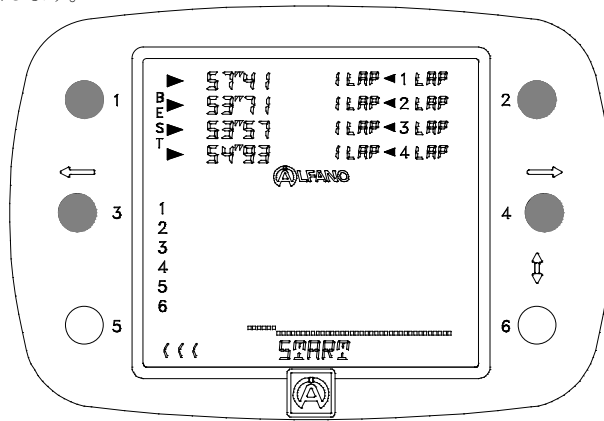
ボタンを押します、

ボタン1, ドライバー1の計測開始,  
 ボタン2, ドライバー2の計測開始  
 ボタン3, ドライバー3の計測開始,  
 ボタン4, ドライバー4の計測開始.

« STOP » 表示が消え, « START » 表示になると計測が開始され、カウンターが動きだします。

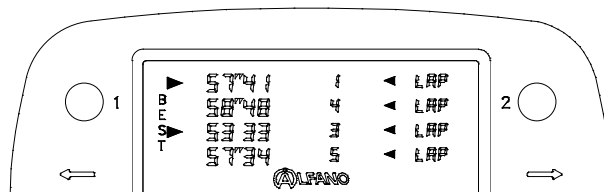


ボタン « 1, 2, 3, 4 » を再度押すと、チャンネル押したチャンネルに合わせたドライバーのラップタイム計測が記録を開始します。



その後は、引き続き、周回毎にそのボタンを押してラップ計測を行います。

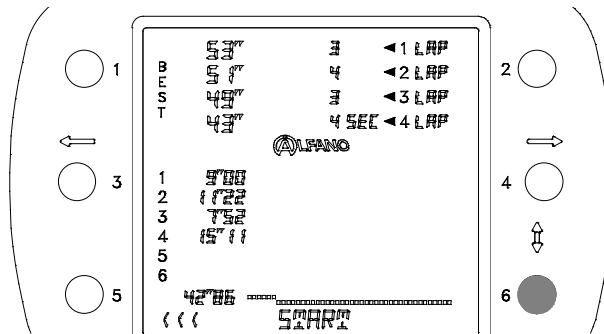
注意：計測中ベストラップを更新した場合は、ディスプレイ左の BEST 表示横に小さな矢印が表示されます。



チャンネル« 4 »における区間計測：

« START »モードにおけるチャンネル« 4 »はボタン« 6 »を押すことによって、区間タイム計測ができます。

その区間タイムは、下図にあるように、ALFANO ログに下に表示されます。



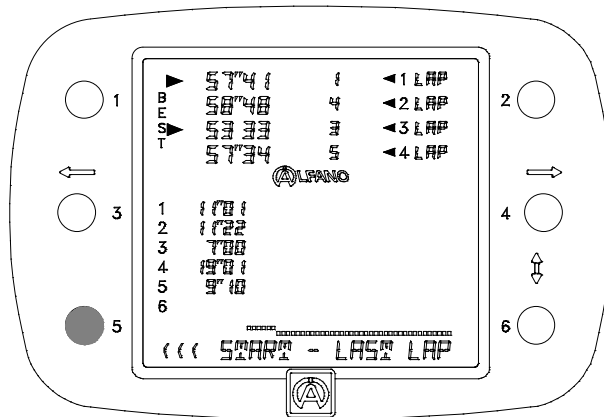
その区間までの、通過タイムは、上図ディスプレイ左下(42'86)のように、表示されます。

ボタン« 6 »において計測できる区間数は最大5区間で、6区間はボタン« 4 »を押すとラップタイム表示と同時に最終区間も表示されます。

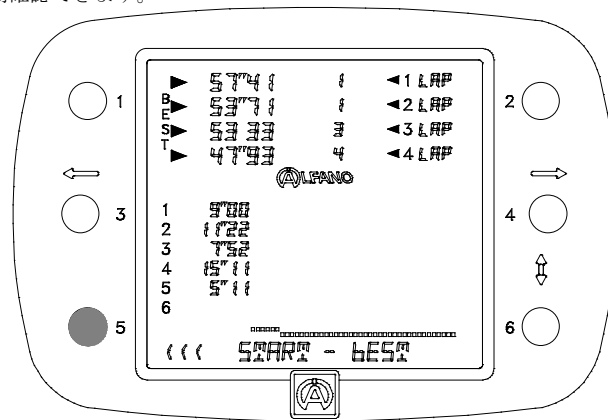
ラップタイム計測中、下記にある情報は、全てタイム計測をとめること無く、確認が可能です、

- 最終ラップタイム« LAST LAP »
- ベストラップ« BEST »
- 経過時間« TOTAL TIME »

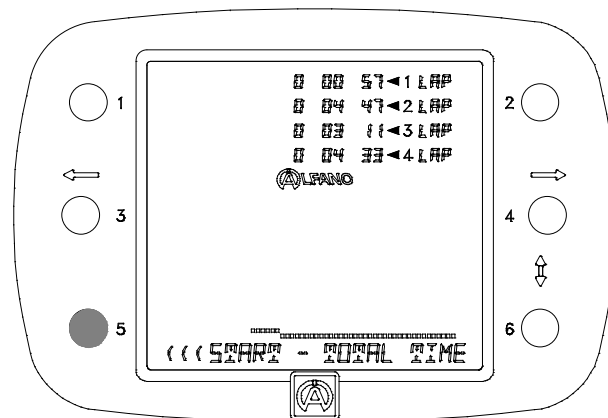
最終ラップタイム « LAST LAP »をより、簡単に確認するためには、ボタン5を計測中に押せば確認可能です。



最終ラップタイム « LAST LAP »を確認している状態で、もう一度ボタン5を押すとベストラップ表示 « BEST » が2秒間確認できます。



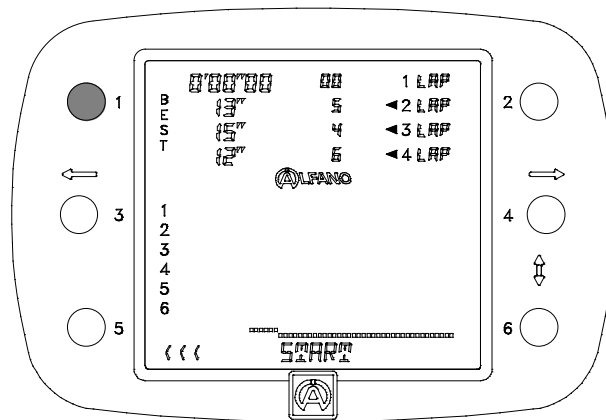
その上で、もう一度ボタン5を押すと、合計経過時間 « TOTAL TIME » が2秒間確認できます。



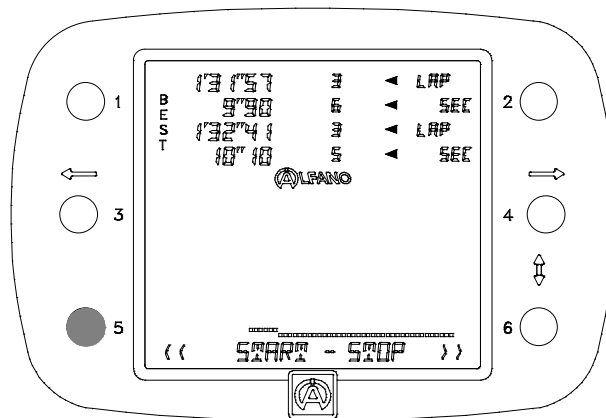
計測モード « START »へは、ボタン5を再度押すと戻ります。

ラップタイム計測中のチャンネル毎の記録クリア:

ラップタイム計測中に、4台の中の1台分のデータのみクリアしたい場合は、その希望のチャンネルボタンを1秒間長押しすると、データクリアされます。



全ての計測を停止« START-STOP »:

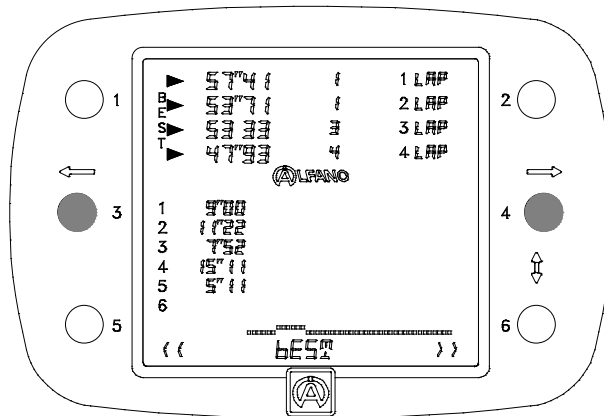


ボタン5を1秒間長押しすると、START-STOP画面に戻ります。

« START-STOP »モードから,ボタン 6 を 1 回押すと,VISION は« BEST »モードに移ります

<< BEST >>

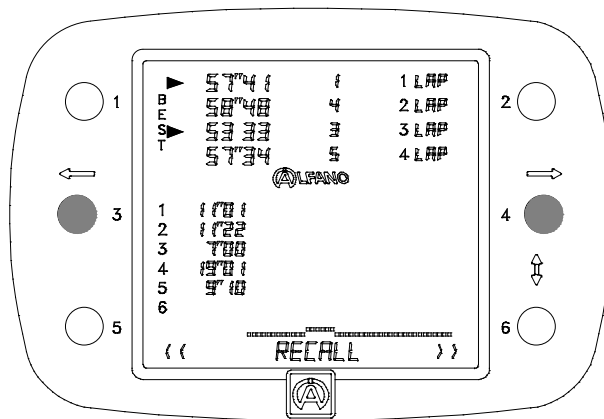
この« BEST »メニューは 4 台分のベストラップを表示します。



« START-STOP »モードから,ボタン 6 を 2 回押すと,VISION は« RECALL »モードに移ります

<< RECALL >>

ラップタイムを追って確認できます。

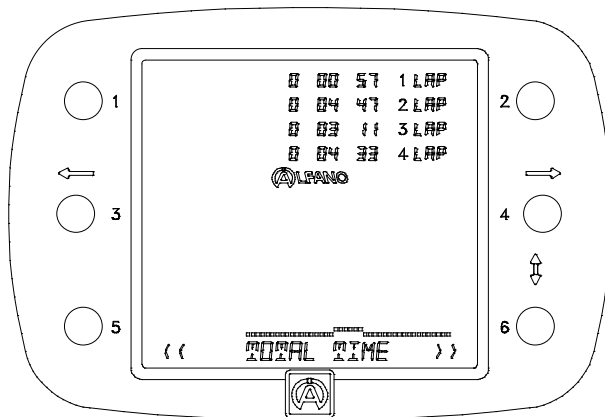


- ボタン 3 を押すと, ラップを戻って確認できます。
- ボタン 4 を押すと, ラップを進めて確認できます。

« START-STOP »モードから、ボタン 6 を 3 回押すと、VISION は « TOTALTIME » モードに移ります

<< TOTAL TIME >>

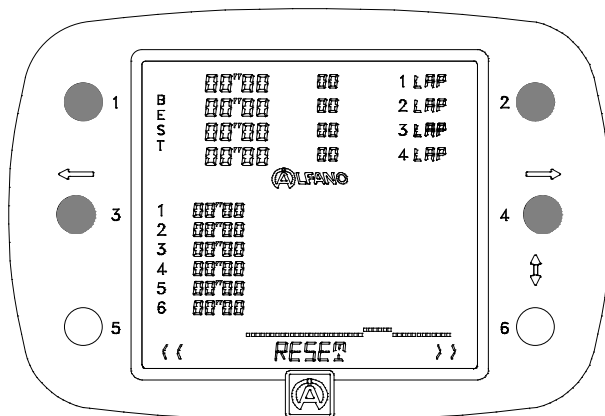
計測開始からの経過時間を確認できます。



« START-STOP »モードから、ボタン 6 を 4 回押すと、VISION は « RESET » モードに移ります

<< RESET >>

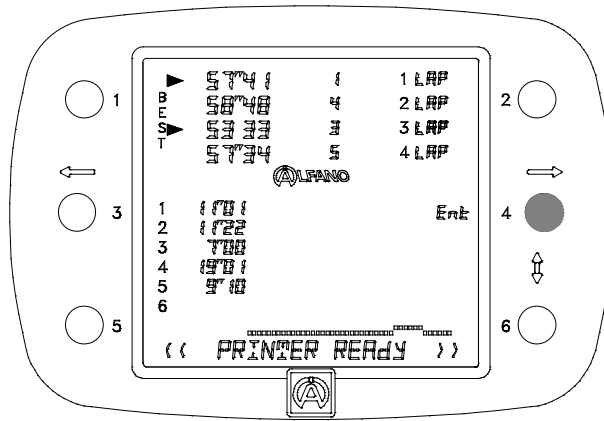
任意のチャンネルデータリセットを行います



このメニューにおいて任意のチャンネル番号を押すと、そのチャンネルデータはリセットされます。

« START-STOP »モードから、ボタン 6 を 5 回押すと、VISION は « PRINTER » モードに移ります

本体データをプリンターへ接続、プリントアウトを行います



まず初めに、プリンター[SEIKO DPU-3445-20]を VISION 背面 RS232 ポートに接続します。そうすると、ディスプレイ下に「PRINTER READY」と表示されます。その後は、プリンターへ転送したいチャンネルボタンを押すと、プリンターへのデータ転送が開始されます。

印刷サンプル (用紙サイズ 110mm)

4 Drivers Chronos

Date : \_\_\_\_\_

Track : \_\_\_\_\_

Driver 1: \_\_\_\_\_

Driver 2: \_\_\_\_\_

Driver 3: \_\_\_\_\_

Driver 4: \_\_\_\_\_

COMMENTS: \_\_\_\_\_

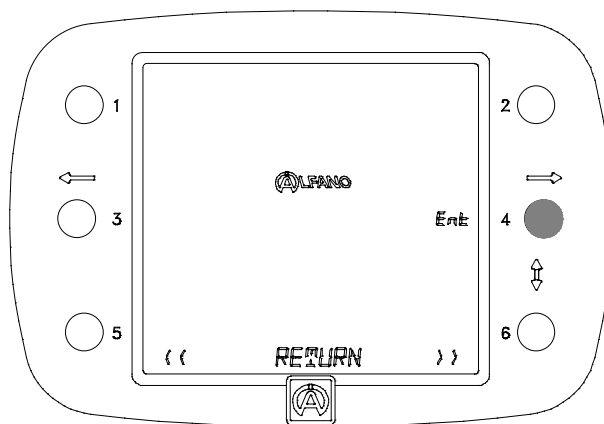
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

LAP	DRIVER1	DRIVER2	DRIVER3	DRIVER4	SPLIT 1	SPLIT 2	SPLIT 3	SPLIT 4	SPLIT 5	SPLIT 6
1	58"92	58"86	58"88	58"85	12"36	10"01	20"29	16"19		
2	1"00"19	1"00"14	1"00"17	1"00"07	13"67	9"36	19"51	16"39		
3	59"85	59"95	59"89	1"00"07	14"31	9"06	20"11	16"59		
4	1"00"29	1"00"29	1"00"27	1"00"20	13"91	9"27	20"20	16"82		
5	59"92	59"78	59"89	59"74	13"53	10"14	35"07	16"87		
6	59"99	1"00"15	1"00"10	1"00"21	13"39	9"73	20"22			

「START-STOP」モードから、ボタン 6 を 4 回押すと、VISION は「RETURN」モードに移ります

このメニューから「4 DRIVERS CHRONO」メニューへ戻ることができます



ボタン 4 « ENT »を押します

« DATA »モードにおいて

- ボタン 6 を 3 , 4 , 5 回押すと, VISION は Set1, Set2 , Set3 メニューに移ります

## < Set KARTING >

この 3 項目は同じ意味で、それぞれのメニューを使って、例えば、外気温度、各タイヤ温度、路面温度を設定できます。

チャンネル 1 : IN - T°                    走行前温度

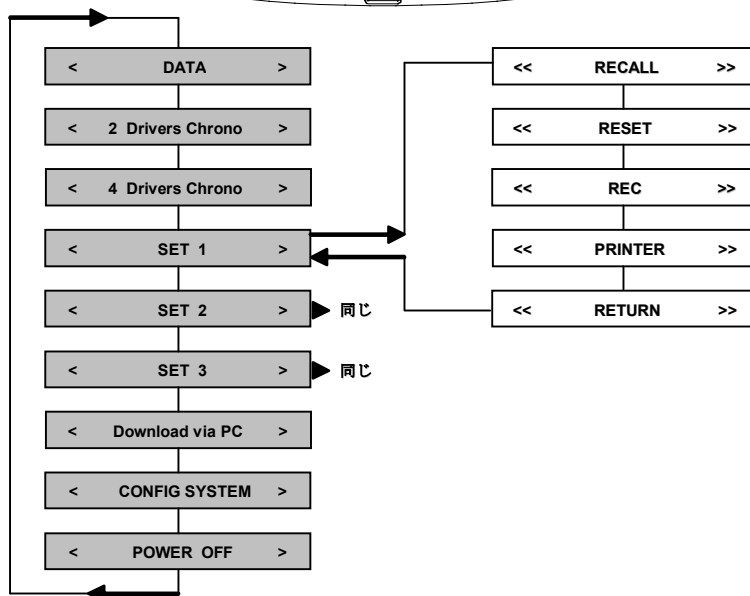
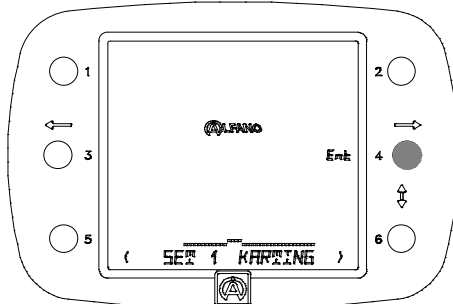
チャンネル 2 : OUT - T°                走行後温度

その他 2 チャンネルは、タイヤの空気圧を手動で設定できます

チャンネル 3 : IN - P                    走行前空気圧

チャンネル 4 : OUT - P                 走行後空気圧

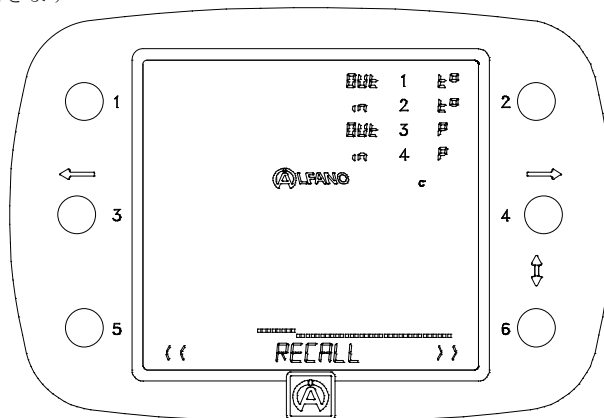
全ての数値を入力後、走行前と走行後でそれぞれの数値の変化が VISION 上で確認することができます。



« Set KARTING »メニューにおいて、ボタン 4 « ENT »を押すと、VISION は« RECALL »モードに移ります。

<< RECALL >>

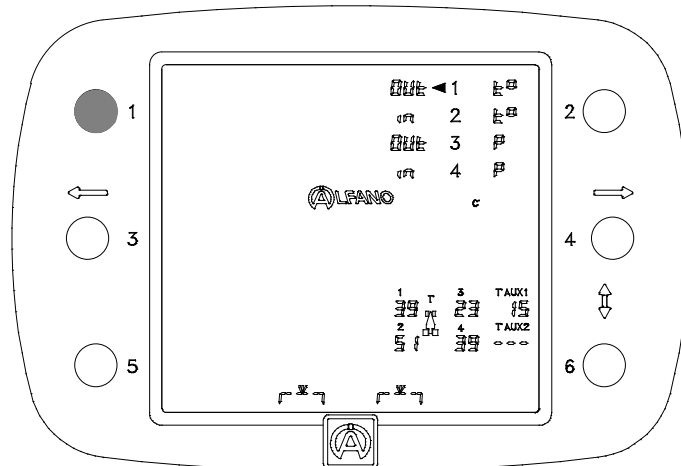
記録データを確認できます



- ボタン 1 でチャンネル 1 の設定数値
- ボタン 2 でチャンネル 2 の設定数値
- ボタン 3 でチャンネル 3 の設定数値
- ボタン 4 でチャンネル 4 の設定数値

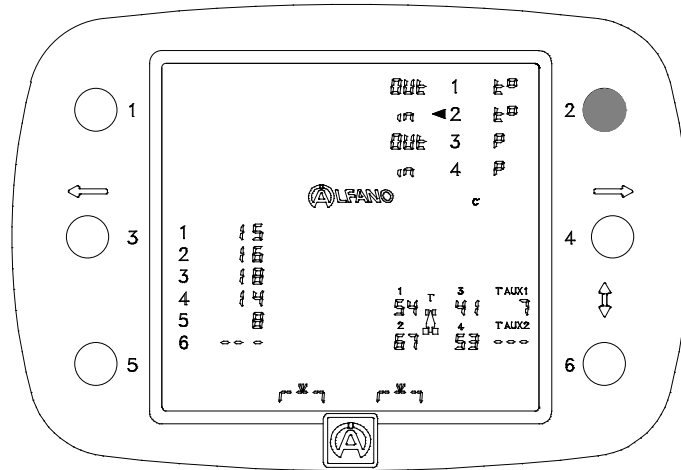
チャンネル 1 を選択：ALFANO ロゴの下に設定数値を表示します、

タイヤ温度 + 2 種類の温度と空気圧の走行前数値表示します



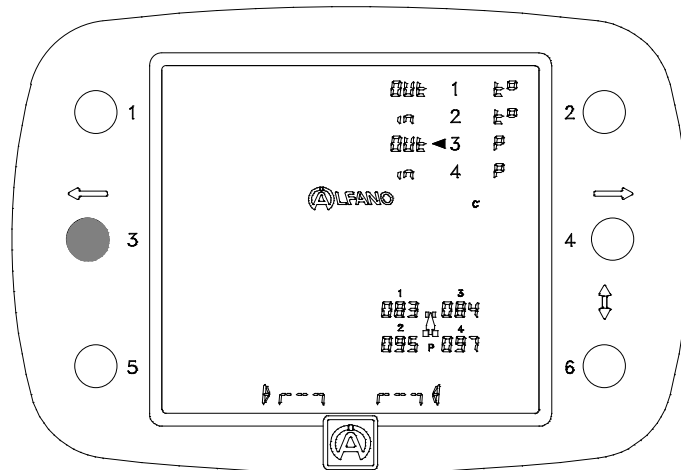
チャンネル2を選択：上記同様

タイヤ温度 + 2種類の温度と空気圧の走行後数値表示します。 同時にその数値の変化量が、ディスプレイ左に表示されます



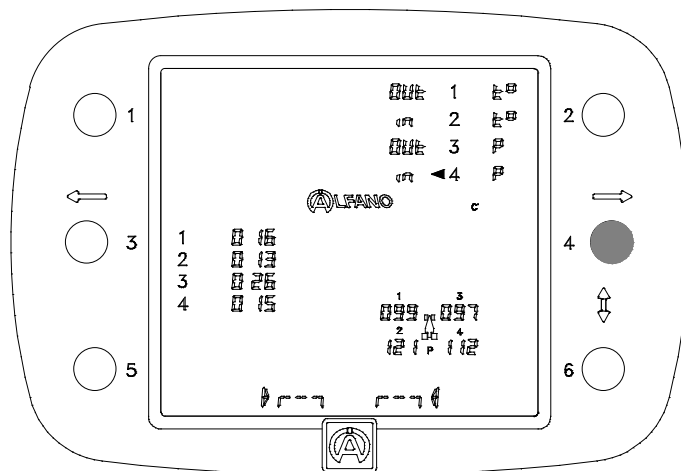
チャンネル3を選択：

設定した走行前のタイヤ空気圧が確認できます



チャンネル 4 を選択 :

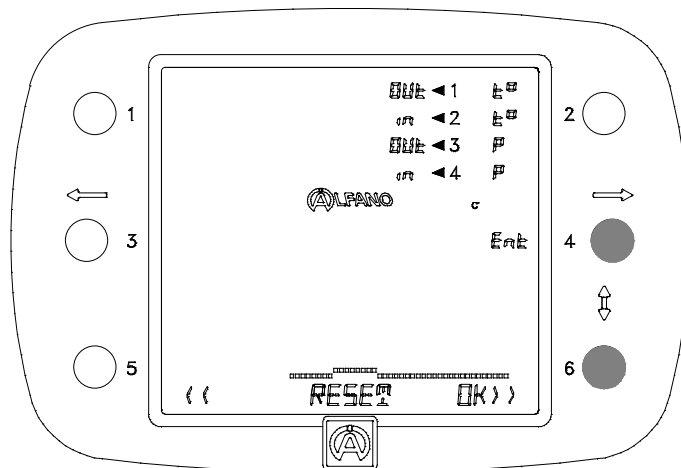
設定したタイヤ空気圧が確認でき、同時にその数値の変化量が、ディスプレイ左に表示されます



« RECALL »モードにおいて、ボタン 6 を 1 回オスと、VISION は« RESET »モードに移ります

<< RESET >>

このメニューにおいては、4 チャンネル同時にデータリセットを行います

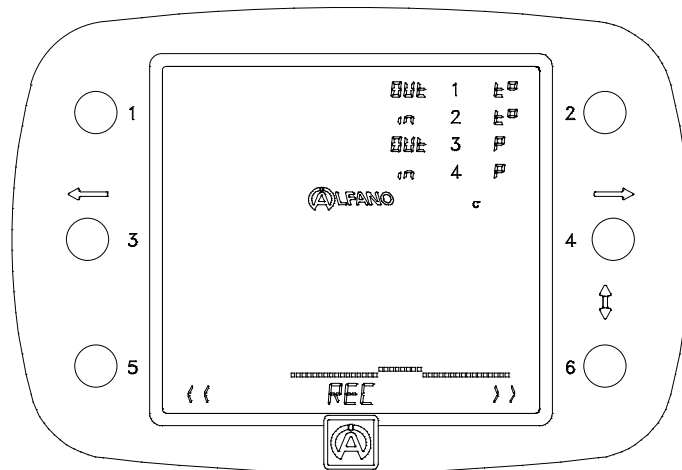


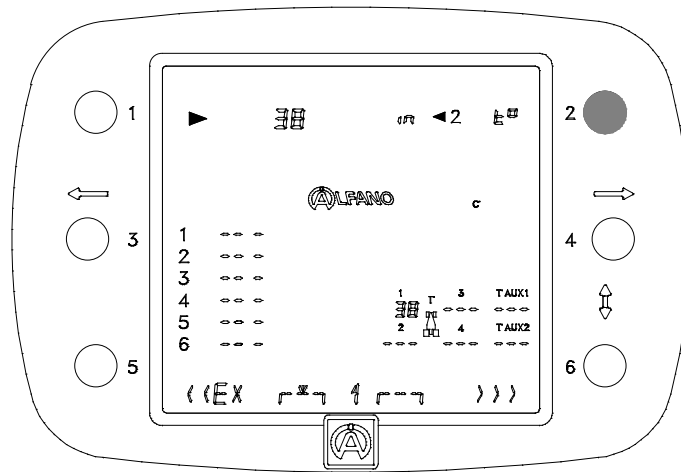
ボタン 4 « ENT » をおして 4 canaux, ボタン 6 « OK »を押します.

« RECALL »モードにおいて、ボタン 6 を 2 回押すと、VISION は« REC »メニューに移ります

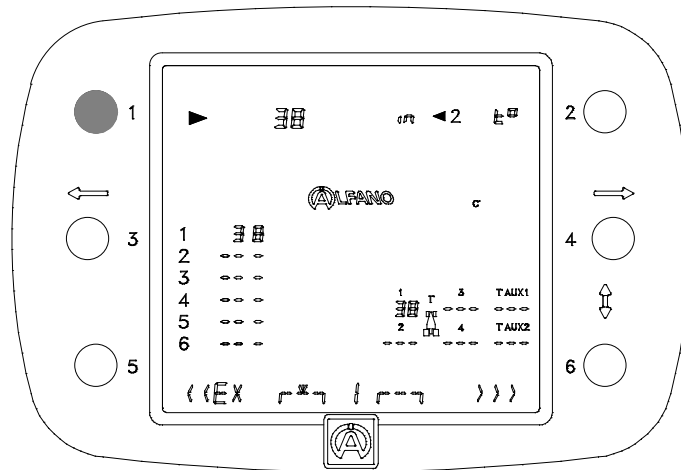
<< REC >>

このメニューから、新しいデータを入力します

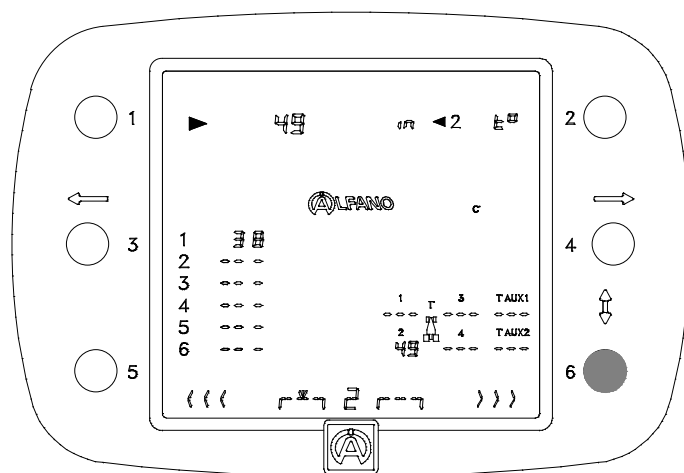




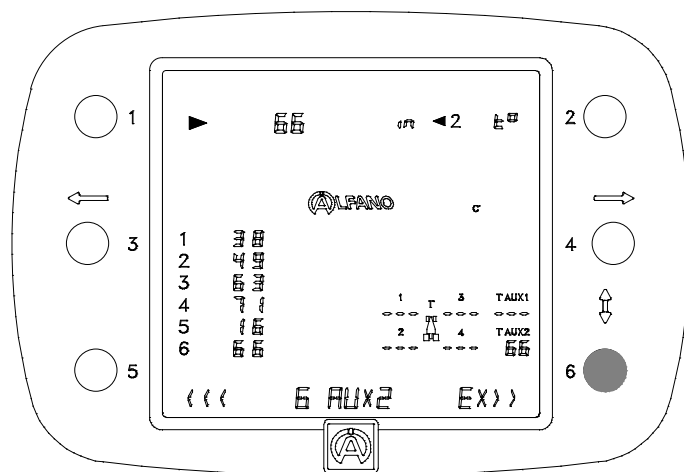
上図サンプル画像より、温度計測するためには、専用温度計 A-481 が必要です。その温度計を VISION 側面に接続すると、ディスプレイ上にその温度 (38°) が表示されます。そして、決定された数値は ALFANO したの図に入力されていきます



T AUX 数値は、タイヤ温度とは別の温度測定・設定 (2 種類) の記録に利用できます



6種類全ての温度設定が完了すると、下図のように、右下にEX表示がされます



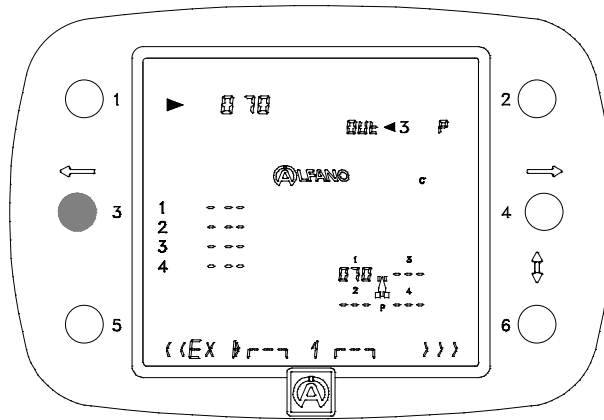
必要温度・箇所のみ計測・記憶したい場合はボタン 6 を押すと、任意の箇所にジャンプすることができます。

画面右下に「EX」表示がされたときに、ボタン 6 を押すとこのメニューから出ることができます

## タイヤ空気圧設定

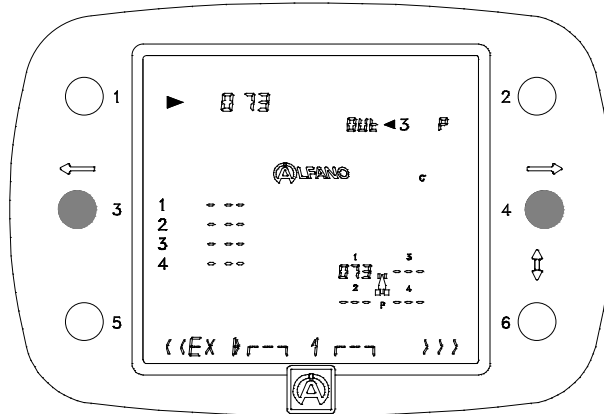
例：チャンネル3を使用して、走行前の空気圧を手動で測定・記憶できます

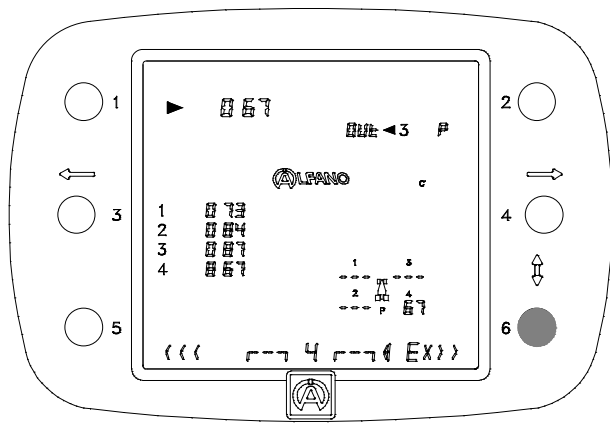
- すでにデータが入力されている場合は、この数値を再入力できます
- すべてのデータを最初から設定したい場合は« RESET »メニューにて、一度クリアしてから、入力為直す必要があります



## 空気圧設定

- ボタン 3, 数値減少
- ボタン 4, 数値増加



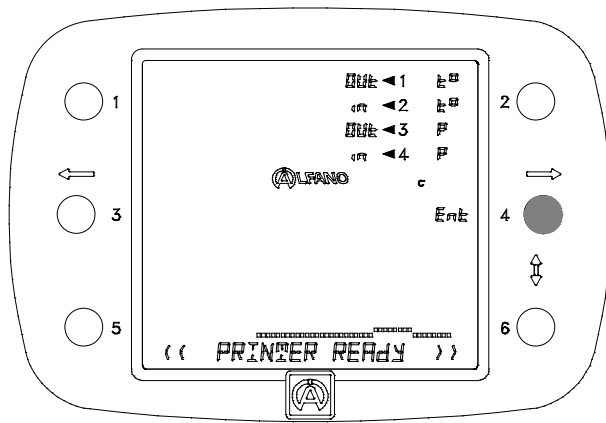


4つの数値設定完了後は、右下に« EX »表示されますので、ボタン6を押すとこのメニューからでることが出来ます

« RECALL »メニューにおいて、ボタン6を3回押すと、VISIONは« PRINTER »メニューに移ります

<< PRINTER >>

このメニューにおいて4チャンネルをプリンターに移すことができます



まず初めに、プリンター[SEIKO DPU-3445-20]を VISION 背面 RS232 ポートに接続します。そうすると、ディスプレイ下に「PRINTER READY」と表示されます。その後は、プリンターへ転送したいチャンネルボタンを押すと、プリンターへのデータ転送が開始されます。

例 1 : Set Karting

Date : \_\_\_\_\_  
 Track : \_\_\_\_\_  
 Tyre : \_\_\_\_\_  
 Kart : \_\_\_\_\_  
 DRIVER : \_\_\_\_\_  
 COMMENTS: \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

SET 1 KART TEMPERATURES (°C)

LEFT	FRONT	RIGHT
30	IN	28
89	OUT	89
+ 39	OUT-IN	+ 61
LEFT	REAR	RIGHT
27	IN	32
48	OUT	82
+ 22	OUT-IN	+ 50

BOX 1	BOX 2	
26	IN	22
---	OUT	---
---	OUT-IN	---

SET 1 KART PRESSURES

LEFT	FRONT	RIGHT
67	IN	67
72	OUT	75
+ 5	OUT-IN	+ 8
LEFT	REAR	RIGHT
67	IN	67
69	OUT	72
+ 2	OUT-IN	+ 5

例2 : Set Car

Date : \_\_\_\_\_  
 Track : \_\_\_\_\_  
 Tyre : \_\_\_\_\_  
 Car : \_\_\_\_\_  
 DRIVER : \_\_\_\_\_  
 COMMENTS: \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_

SET 1 CAR TEMPERATURES (°C)

LEFT		FRONT		RIGHT		
EXT.	CENTER	INT.	FRONT	INT.	CENTER	EXT.
53	33	33	IN	35	37	37
67	84	76	OUT	72	85	78
+ 24	+ 51	+ 42	OUT-IN	+ 38	+ 48	+ 41
EXT.	CENTER	INT.	REAR	INT.	CENTER	EXT.
33	27	37	IN	35	35	35
78	67	59	OUT	78	88	78
+ 43	+ 30	+ 22	OUT-IN	+ 43	+ 51	+ 43

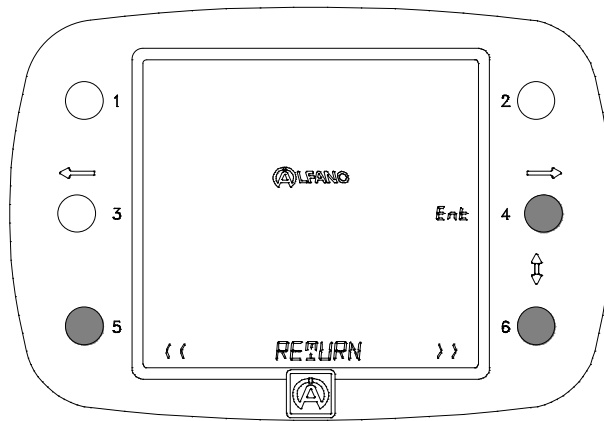
BOX 1	BOX 2	
25	IN	21
---	OUT	---
---	OUT-IN	---

SET 1 CAR PRESSURES

LEFT	FRONT	RIGHT
210	IN	210
224	OUT	215
+ 14	OUT-IN	+ 5
LEFT	REAR	RIGHT
220	IN	220
231	OUT	234
+ 11	OUT-IN	+ 14

« RECALL »モードから、ボタン6を4回押すと、VISIONは« RETURN »モードに移ります

このメニューから「Set」を出て、メインメニューに戻ることができます



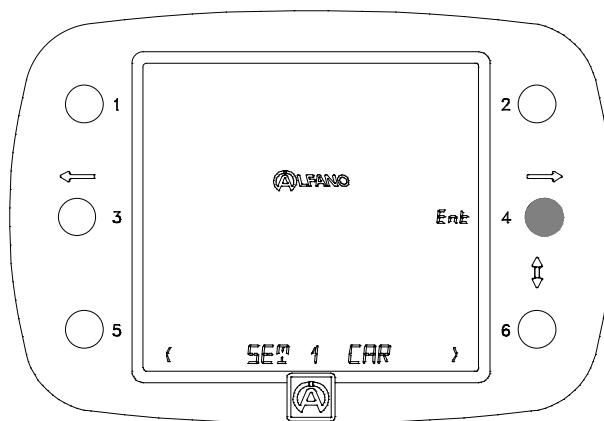
ボタン 4 « ENT »を押します

« DATA »モードから

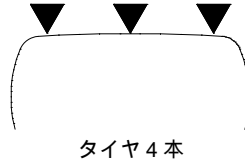
- ボタン 6 を 3 , 4 , 5 回押すと, VISION は Set1, Set2 , Set3 メニューに移ります

< Set CAR >

このメニューは「Set1, Set2, Set3 KARTING」をほぼ同じです。ただしこの「Set1, Set2, Set3 CAR」メニューにおいては、タイヤ温度を外側・中央・内側の3箇所に分けて測定することが出来ます。



外側 - 中央 - 内側

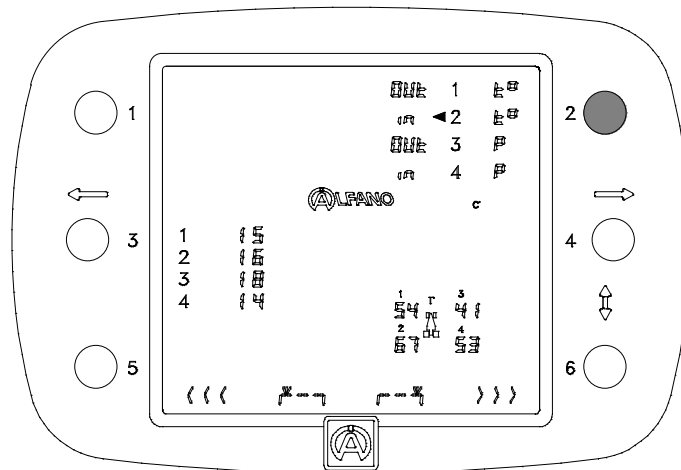


« CONFIG SYSTEM »メニューにおいて、

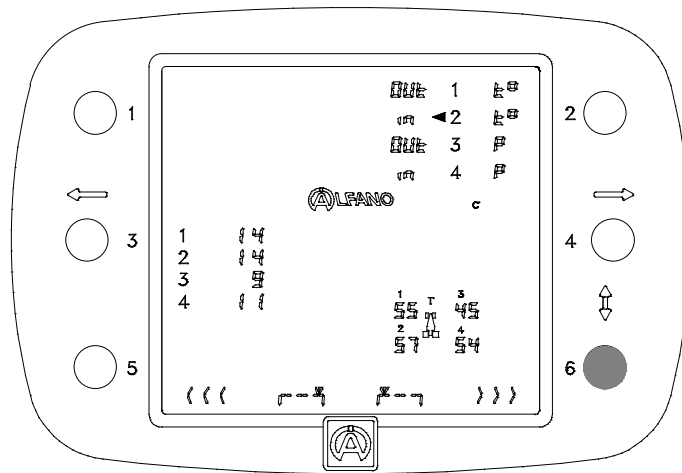
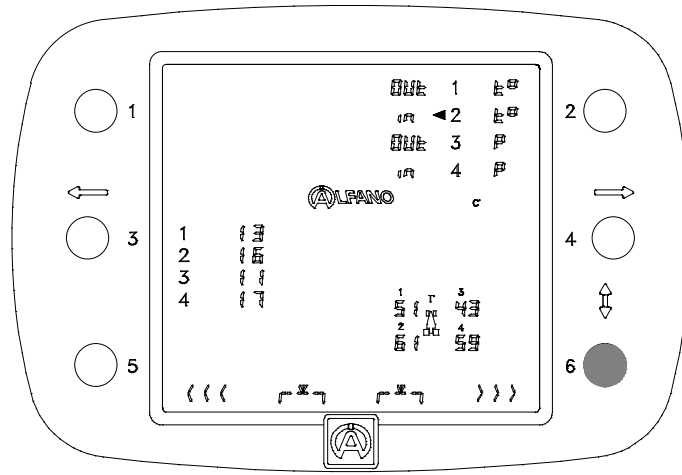
- « Set1, Set2, Set3 KARTING » もしくは
- « Set1, Set2, Set3 CAR » のどちらかで選択可能です

<< RECALL >>

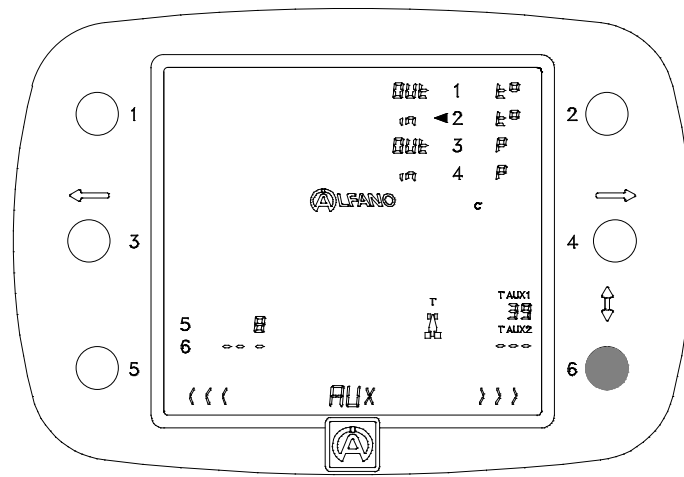
それぞれ、走行前、走行後数値入力後、このメニューにおいて、それぞれの数値確認を行います。確認したいチャンネルボタンを押して、ボタン6を押すと、その入力値の詳細が追って確認できます



ボタン6を押すと項目が進みます

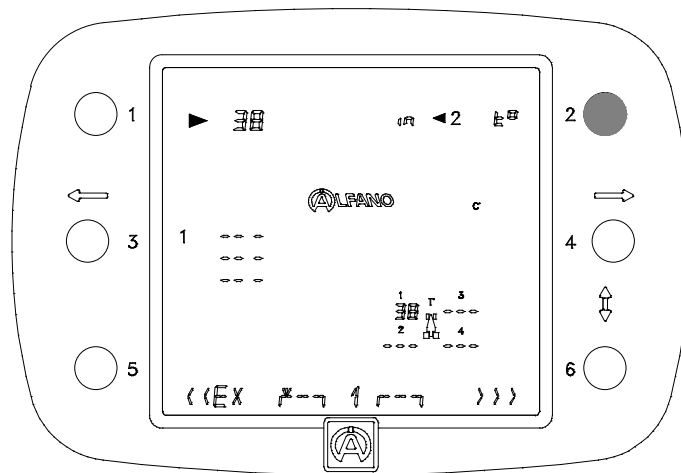


ボタン6を押すと、タイヤ温度以外の温度確認ができます

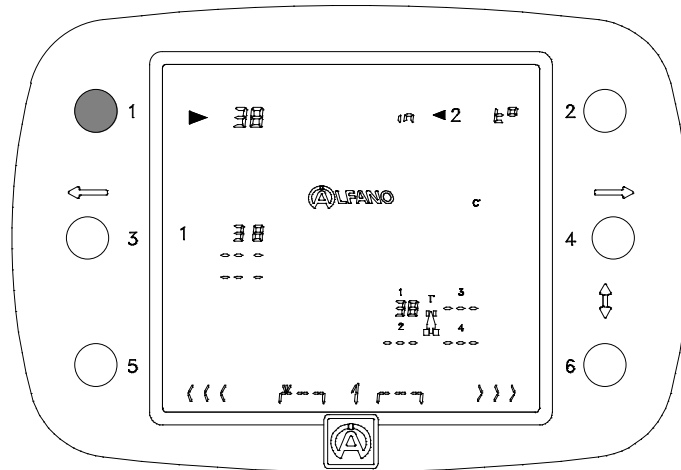


<< REC >>

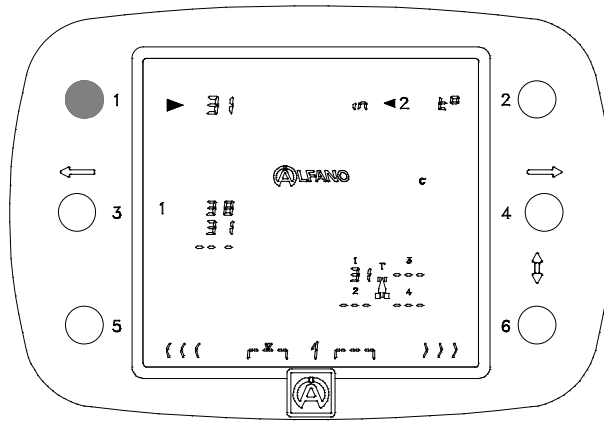
このメニューでは、1本のタイヤ温度につき3箇所の温度測定・設定が可能なので、下図のようにALFANO ロゴのしたには、1項目につき3項目の入力が必要となります。それぞれは、入力中、ディスプレイ下にタイヤイメージ図がありますので、その絵に合わせたタイヤ箇所の温度測定を行ってください



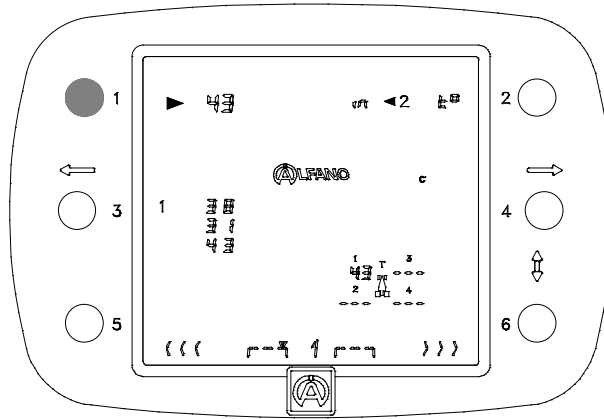
左フロントタイヤ外側温度：38°



左フロントタイヤ中央温度：31°

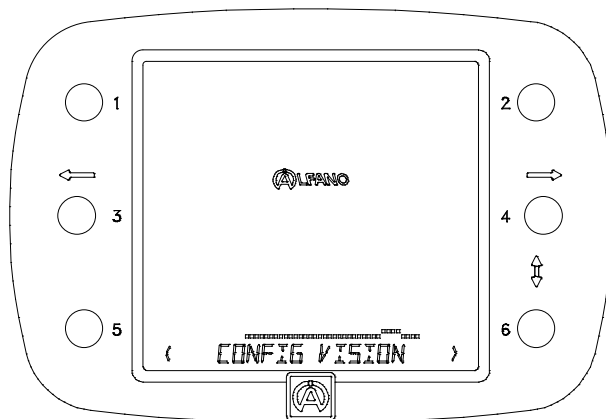


左フロントタイヤ内側温度：43°

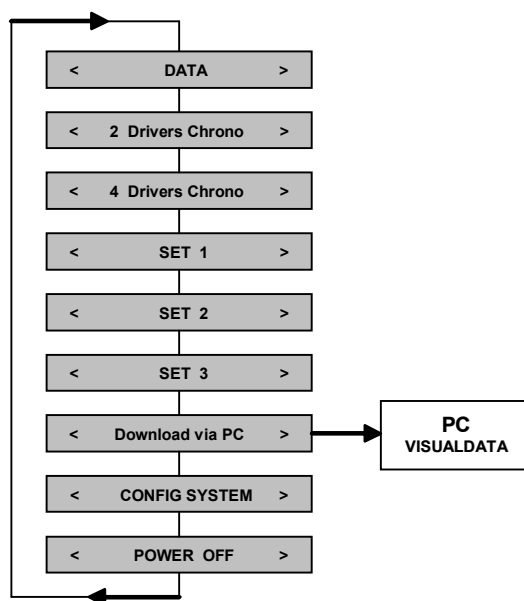


« DATA »モードにおいて、ボタン6を6回押すと、VISIONは次のモードに移ります：

このメニューから、ALFANO 解析ソフト VISUALDATA に VISION のデータを反映させるために必要なデータ転送を行います。



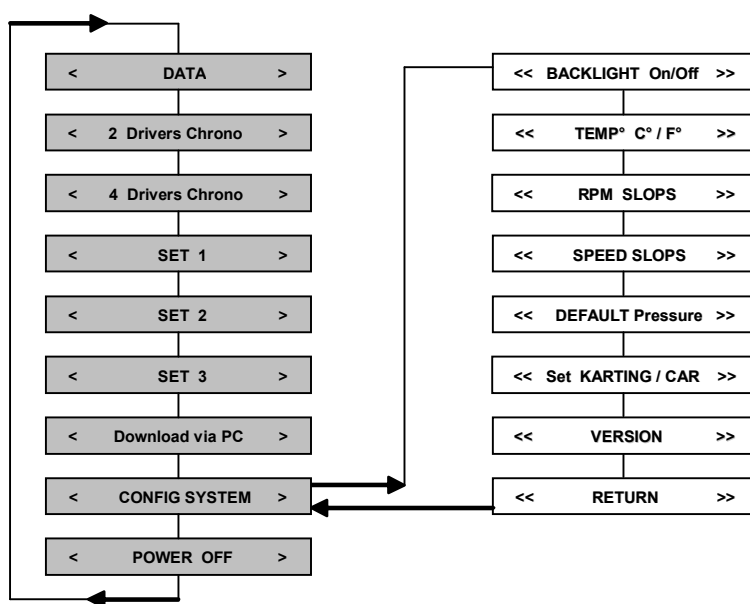
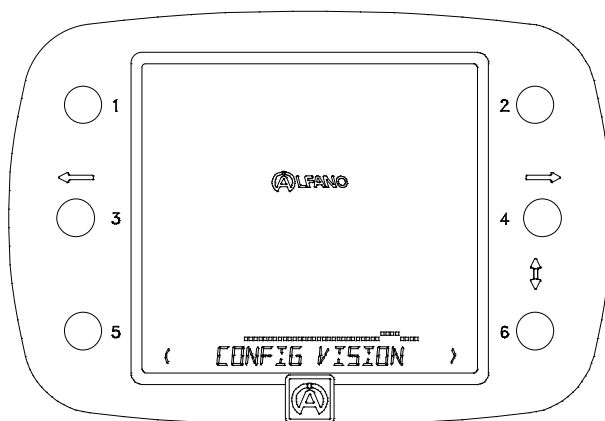
お使いのパソコンに VISUALDATA ソフトがインストールされていることを確認してください



« DATA »モードにおいて、ボタン6を7回押すと、VISION は次のメニューに移ります：

< CONFIG SYSTEM >

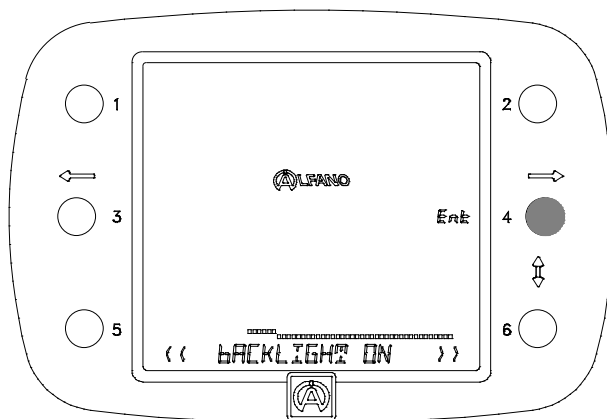
このメニューにおいて、VISION 本体を任意の設定にすることができます



« CONFIG SYSTEM »メニューにおいて、ボタン4 « ENT »を1回押すと、VISION は次のメニューに

移ります :  
 << BACKLIGHT : ON-OFF >>

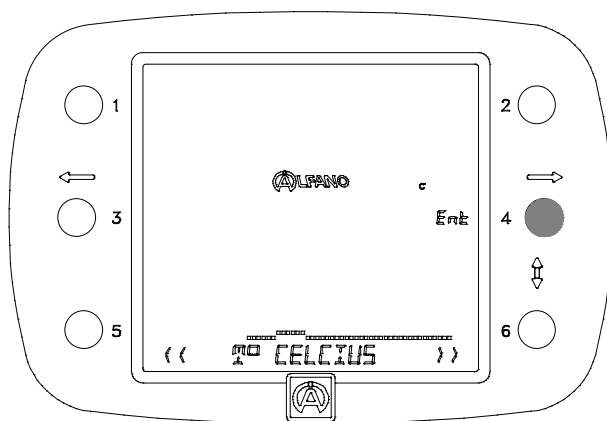
本体バックライト設定



ボタン4 « ENT »で設定します

« Backlight ON-OFF »メニューから, ボタン6を1回押すと, VISIONは次のメニューに移ります :  
 << TEMPERATURE : F° - C° >>

このメニューにおいては、「Set Karting ou Set Car」の温度設定単位を設定します

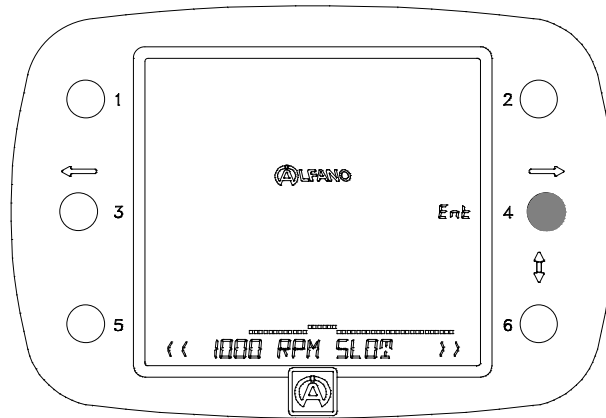


« Backlight ON-OFF »メニューから, ボタン6を2回押すと, VISIONは次のメニューに移ります:

Copyright © 2007 Alfano.S.A. Tous droits réservés.

<< RPM : SLOTS >>

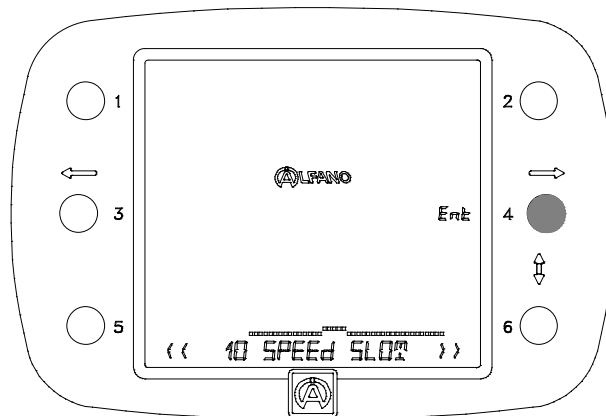
このメニューにおいては、「RPM」メニューにおける回転数単位(1000, 500, 250)を設定します



« Backlight ON-OFF »メニューから、ボタン 6 を 3 回押すと、VISION は次のメニューに移ります :

<< SPEED : SLOTS >>

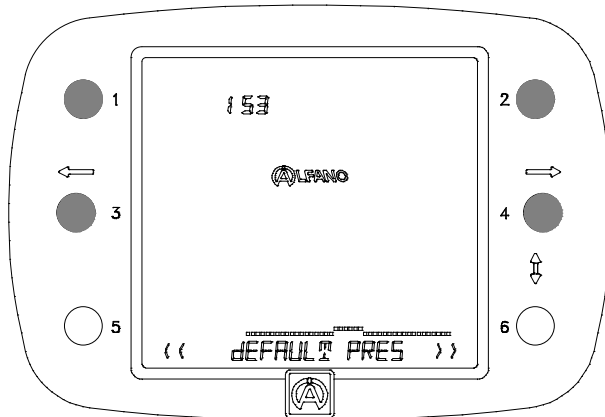
このメニューにおいて、「SPEED」メニューにおけるスピード単位 (5, 10, 20)を設定します。



« Backlight ON-OFF »メニューから、ボタン6を4回押すと、VISIONは次のメニューに移ります：

<< DEFAULT : PRESSURE >>

このメニューにおいては「Set Karting - Car」メニューにおける、タイヤ空気圧初期値を設定します



ボタン3：数値1減少

ボタン4：数値1増加

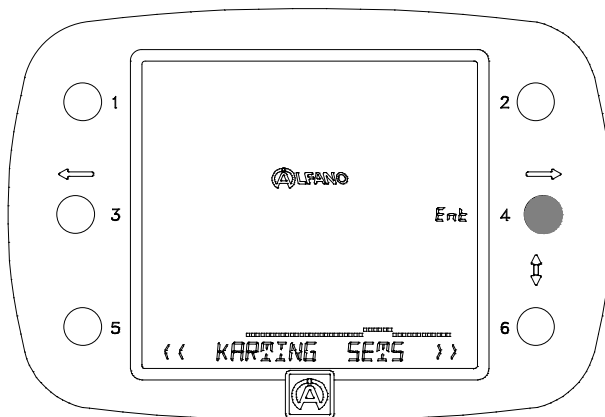
ボタン1：数値10減少

ボタン2：数値10増加

« Backlight ON-OFF »メニューから、ボタン6を5回押すと、VISIONは次のメニューに移ります：

<< SET : KARTING / CAR >>

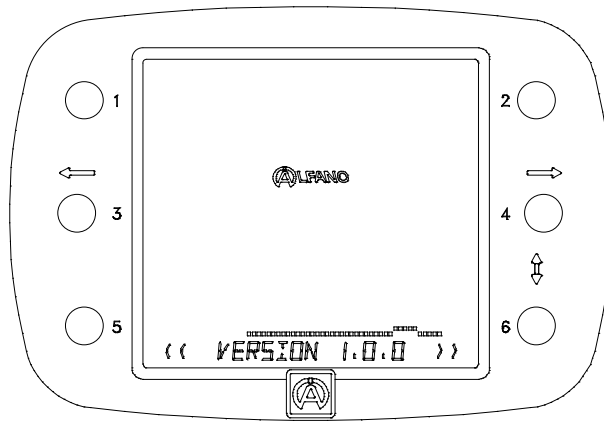
このメニューにおいて「Set Karting」もしくは「Set Car」を選択します



« Backlight ON-OFF »メニューから、ボタン6を6回押すと、VISIONは次のメニューに移ります：

<< VERSION >>

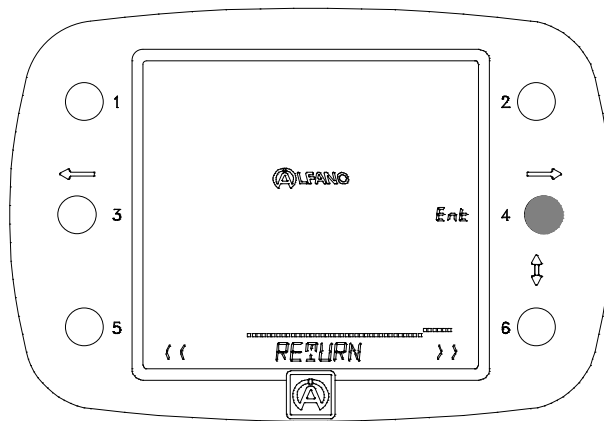
VISION本体のバージョン情報が表示されます



« Backlight ON-OFF »メニューから、ボタン6を7回押すと、VISIONは次のメニューに移ります：

<< RETURN >>

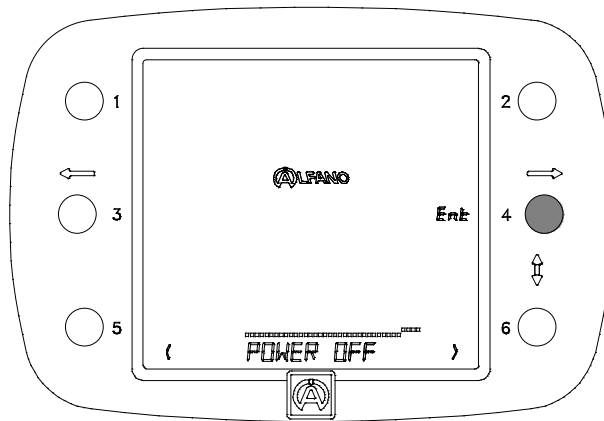
このメニューから « Set »メニューを出て、メインメニューに戻ることができます



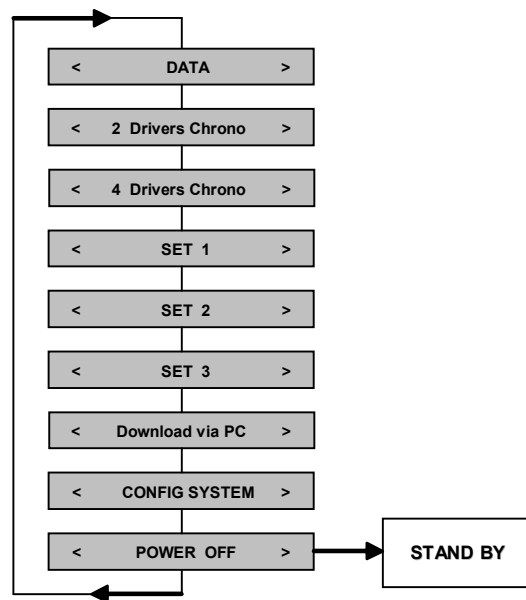
« DATA »モードから、ボタン 6 を 8 回オスと、VISION は次のメニューに移ります：

< POWER OFF >

VISION 本体の電源を OFF にします



ボタン 4 « ENT »を押します。



## Conditions de garantie

Tous nos appareils ont été soumis à des essais approfondis en usine et sont couverts par une garantie de 24 mois contre les défauts de fabrication. La garantie entre en vigueur à partir de la date d'achat. La date d'achat est la date indiquée sur la facture/le ticket de caisse délivré au moment de l'achat par le revendeur. Le fabricant s'engage à réparer et à remplacer gratuitement les pièces comportant un défaut de fabrication pendant la période de garantie. Les défauts qui n'auront pas été clairement attribués au matériau ou à la fabrication seront examinés auprès d'un de nos centres de service après-vente agréé ou auprès de notre siège central et facturés en fonction des résultats. La garantie ne s'applique pas en cas d'ouverture de l'appareil, de dégâts accidentels, à une négligence ou à une utilisation inadaptée, en cas d'installation impropre, erronée ou non conforme aux instructions figurant dans la notice et en cas de phénomènes indépendants des normes de fonctionnement et d'utilisation de l'appareil. La garantie est annulée en cas de réparation ou de manipulation effectuée par des tiers non autorisés. L'intervention sous garantie ne donne pas droit au remplacement de l'appareil ou à la prolongation de la garantie. L'intervention sous garantie est effectuée auprès d'un de nos centres de service après-vente agréés ou auprès de notre siège. Dans ce dernier cas, la pièce doit nous parvenir franco notre établissement, c'est-à-dire que les frais de transport restent à charge de l'utilisateur. Le fabricant décline toute responsabilité en cas de dégâts à des personnes ou à des biens provoqués par une mauvaise installation ou un usage impropre de l'appareil.

## Modifications des produits

**Alfano S.A.** applique une méthode de développement continu. Par conséquent, **Alfano S.A.** se réserve le droit d'apporter des changements et des améliorations à tout produit décrit dans ce document, sans aucun préavis.

## Dommages et responsabilités

Les produits étant utilisés sous la seule direction et responsabilité du client, ce dernier supportera les dommages que les produits pourraient subir ou occasionner. Aucune indemnité ne sera accordée pour privation de jouissance, ALFANO ne peut être tenu pour responsable des conséquences directes ou indirectes de leur exploitation ou de leur utilisation. Les obligations d'ALFANO sont des obligations de moyen et non de résultat.

## Mise au rebut

La mise au rebut de la machine doit s'effectuer dans le respect de l'environnement. Le chronomètre et ses accessoires présentent beaucoup de pièces en plastique. Lorsque le chronomètre ou un de ses accessoires ne fonctionnent plus, ils doivent être traités dans le respect de la législation du pays. Tout comme les anciennes piles qui doivent être mises au rebut conformément aux règlements en vigueur dans votre pays.

ご使用上、ご質問・ご不明な点は弊社までお問い合わせください

株式会社 栄光

愛知県名古屋市天白区井口1丁目1709

[www.eiko,s.com](http://www.eiko,s.com)